

IRDBから見る機関リポジトリの現状 および周辺の問題の整理について

平成24年度国立情報学研究所実務研修成果報告発表

H24年度実務研修生
琉球大学附属図書館
稲永晶子



自身の課題と機関リポジトリについて

- 琉球大学では平成19年11月に本運用開始。
 - # 構築当初は何が起きているのかよくわかっていなかった。
- 自館でのセルフアーカイブの状況。
 - ほとんどゼロと言ってもいい。
 - #リポジトリ担当になってからは、ほぼ紀要の登録のみ。
- 自館のリポジトリだけでなく全体を俯瞰するような視点が必要では？
 - 何かやりたい。
 - DRFの翻訳隊に入ってみる。
 - オープンアクセスの話題が盛ん！
 - 楽しいし、勉強になるけど……
 - 自身のリポジトリ業務との乖離

自身の課題と機関リポジトリについて

●機関リポジトリの新たな局面●

- CSI事業の公募終了
 - 2012年のJAIRO Cloudの開始
- 何か新しいことが始まりそう。
→構築済みの機関の次の一手は？

●実務研修に来ましたよ！●

- NIIでしかできないことをやろう
 - IRDBコンテンツ分析のデータ分析
 - JAIRO Cloud関連業務
- #構築済み機関としての視点しかなかったなあ……
→でも他さまざまな状況で応用できる話題もたくさん。

●●成果報告項目●●

- PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理
- IRDBコンテンツ分析のデータから見る機関リポジトリの現状の分析
- 学術雑誌掲載論文登録のワークフロー調査

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

きっかけ

JAIRO Cloudコミュニティにおける質問

「コピーを許可しない」設定のPDF（以降コピー禁止設定のPDF）は**全文検索**ができないのでしょうか？

対処

コピー禁止設定のPDFからテキストを抽出して**全文検索**を可能にする機能をWEKOに搭載することはできる。

課題1

コピー禁止設定を無視してテキストをコピーするという行為は**複製権の侵害**にあたらないのか？

課題2

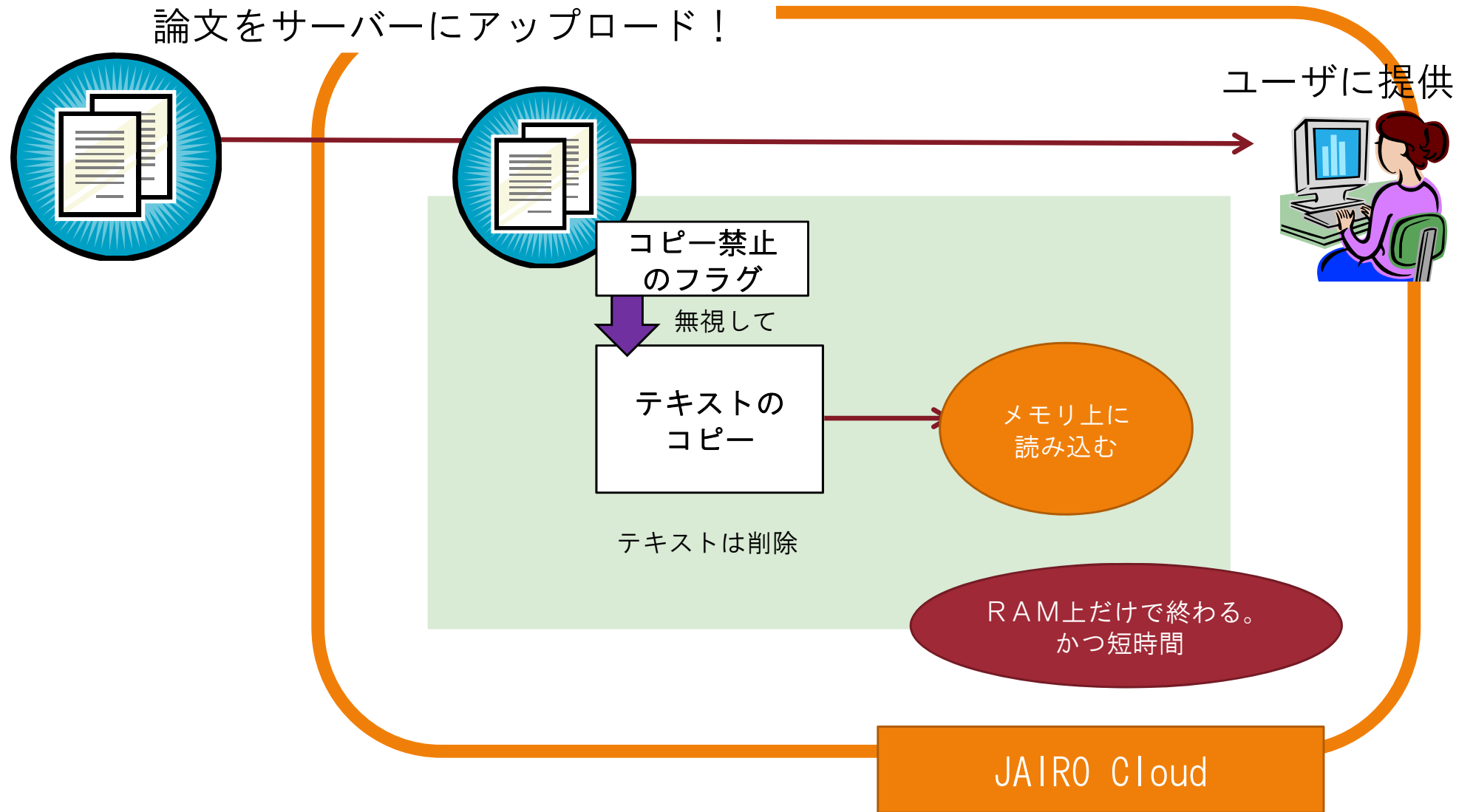
コピー禁止設定のPDFからテキストを抜き出す機能を搭載したWEKOをオープンソースとして配布することは問題ないのか？

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理 課題1

複製権

著作権に含まれる権利の一つ。著作権法第21条によると「著作者は、その著作物を複製する権利を専有する。」とある。著作権法第30条から第47条の8に定められた例外規定を除いて著作者の許可なく複製することは複製権の侵害とみなされる。

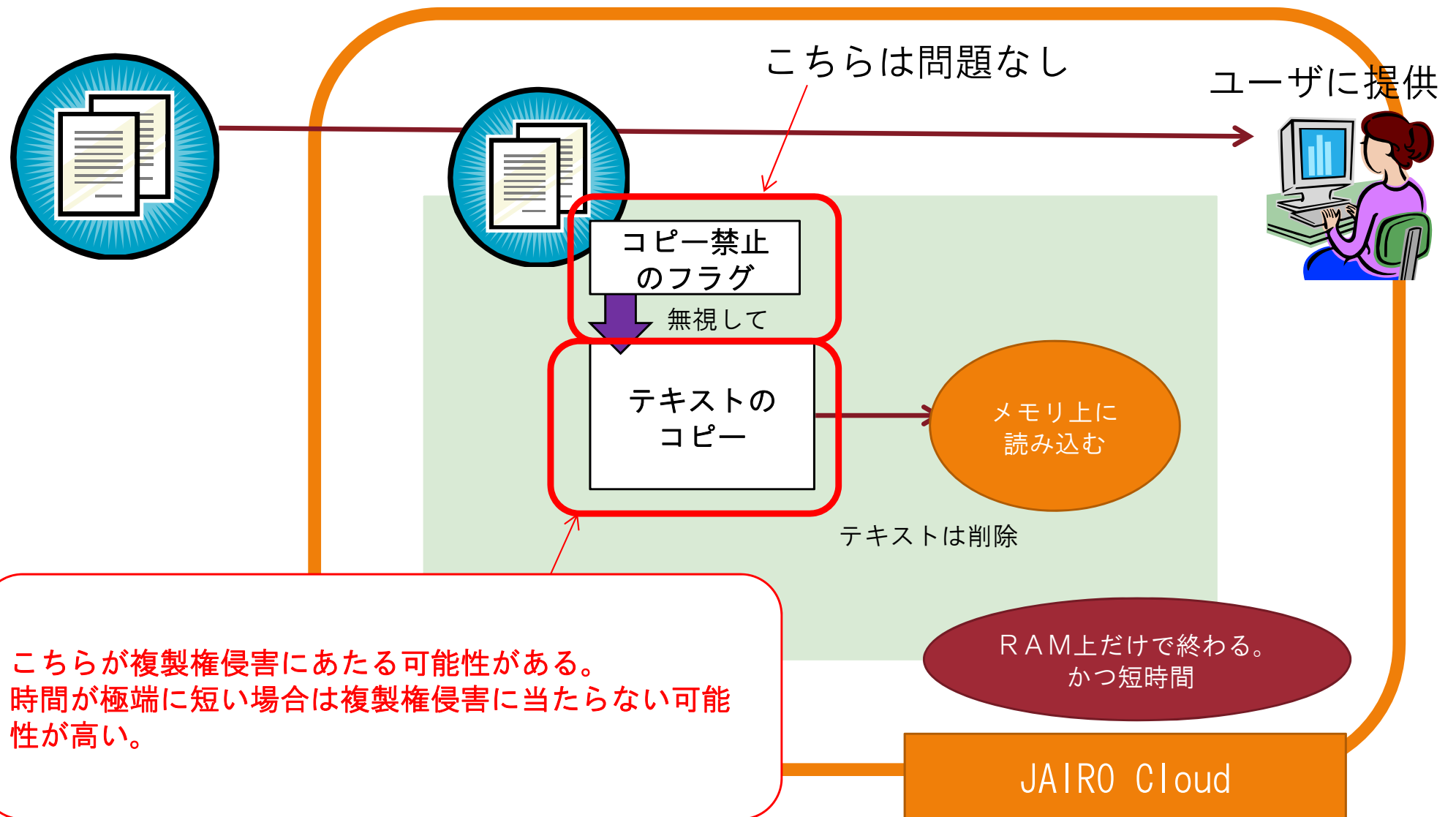
PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理 課題1の整理



テキストファイル抽出の部分の操作だけを強調して表示しています。

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

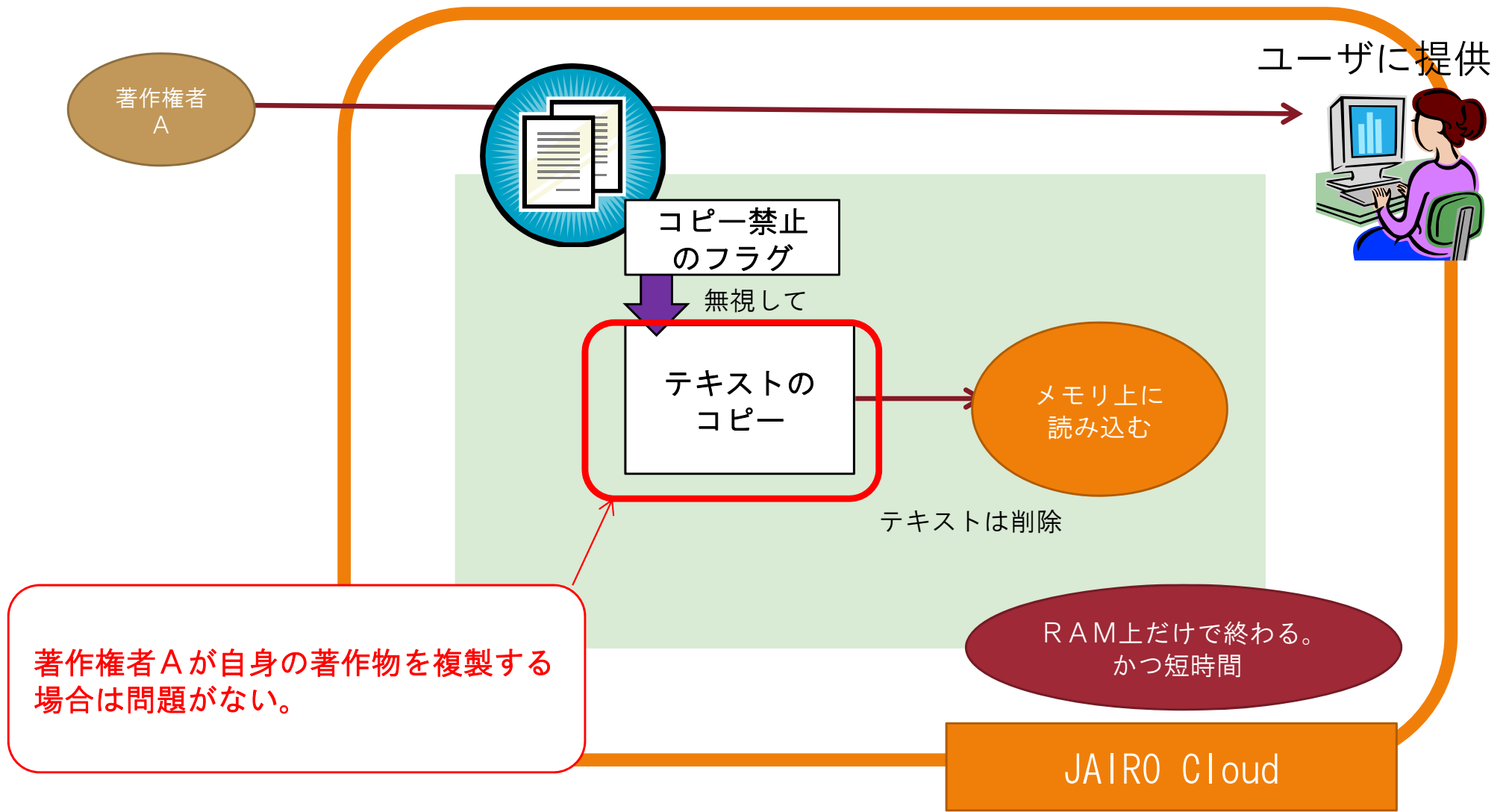
課題1の整理



PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題1の整理

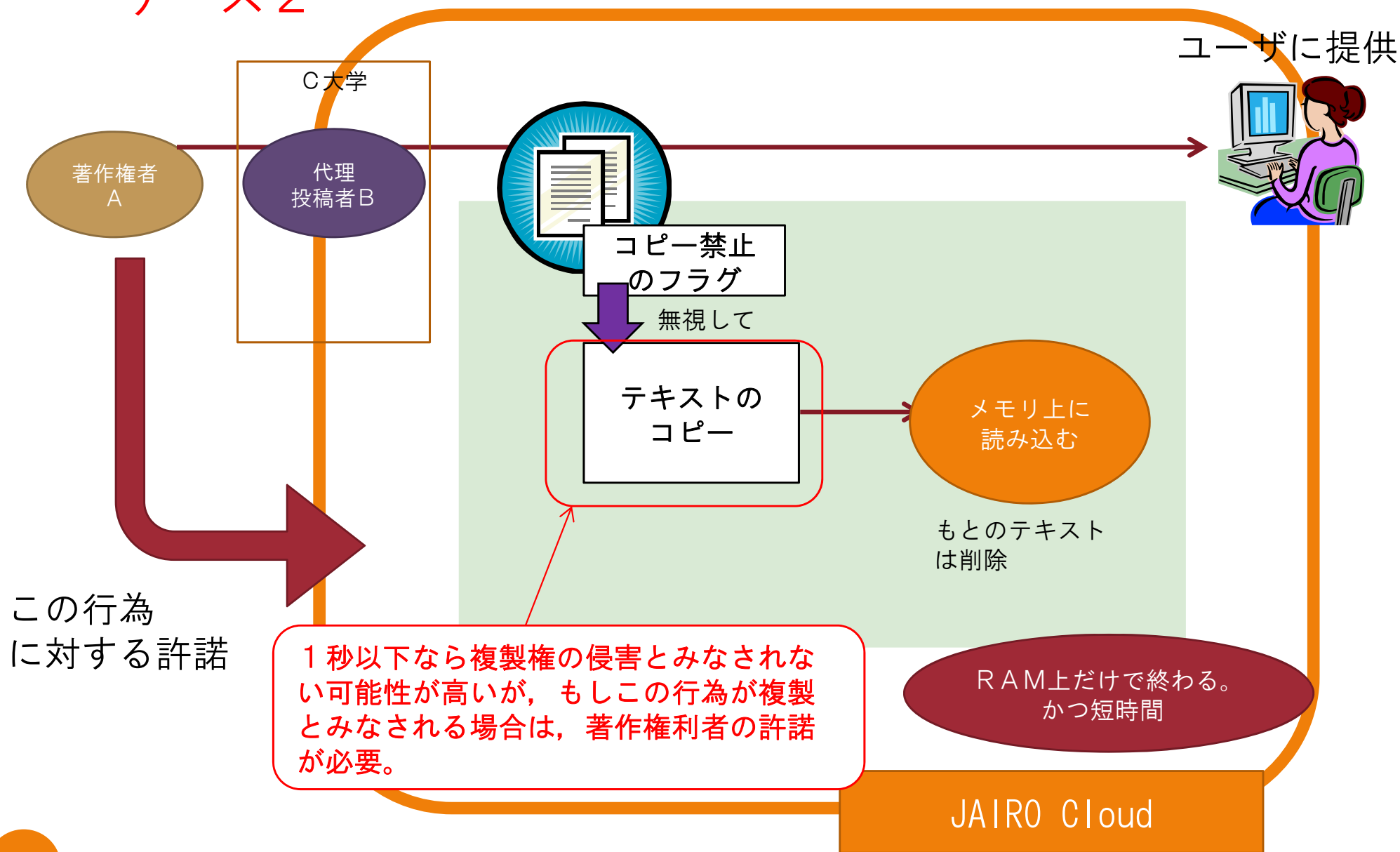
ケース1



PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題1の整理

ケース2



PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題1の整理

■問題の所在■

- ・「PDFのコピー禁止のフラグを無視する」という行為のみは違反ではないが、テキストファイルを抜き出す行為が複製権を侵害する可能性がある。

■過去の例■

- ・複製が著しく短時間であった場合、複製権の侵害ではないと認められた判例がある。

ex) スターデジオ事件 / 0.7秒。

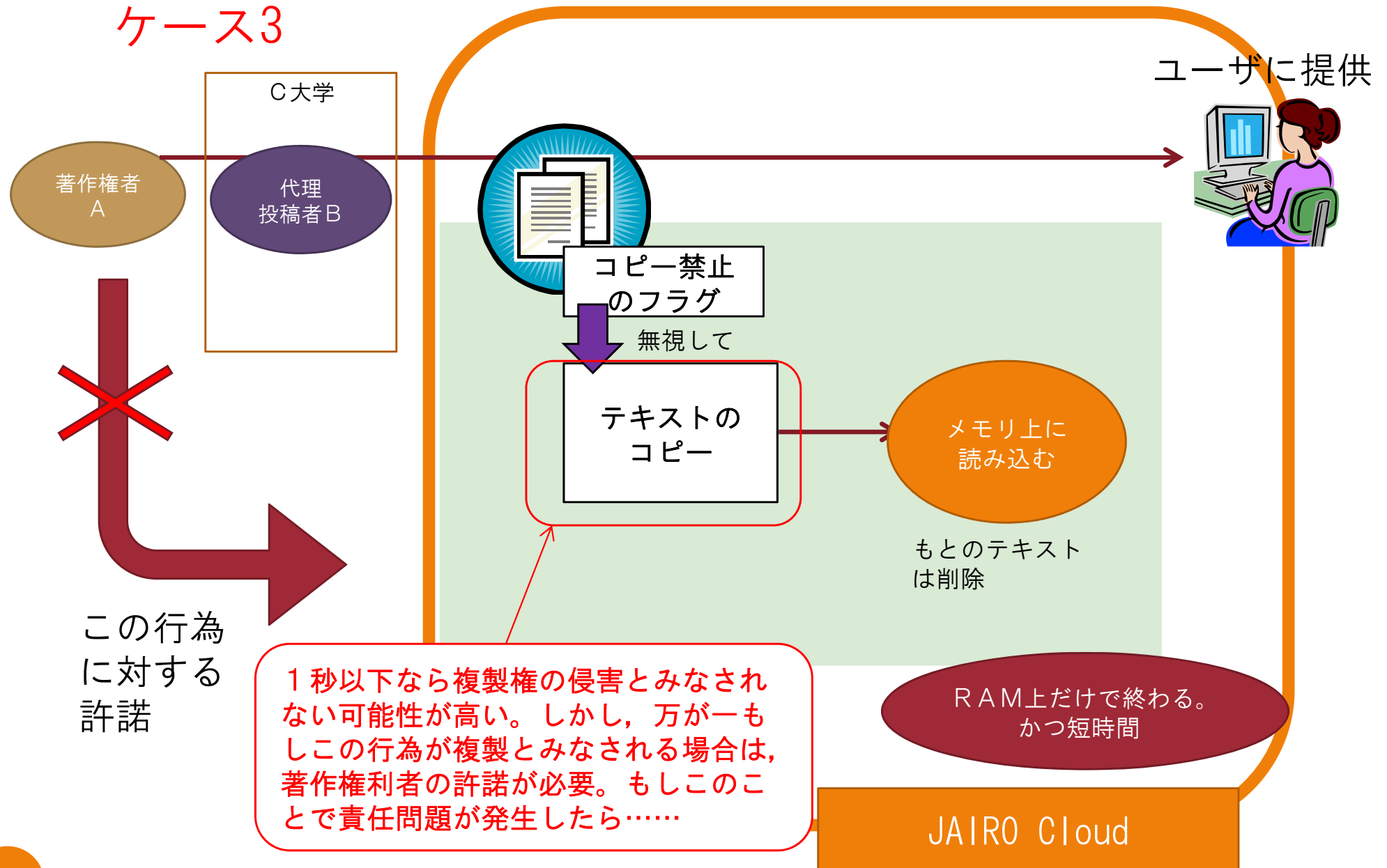
■解決策■

- ・複製には原則として許諾が必要となる。C大学の代理投稿人Bが代理投稿を行う場合、全文検索のための手順について、権利者Aから許諾を取る必要がある。

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題1の整理

ケース3



PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題1の整理

■問題の所在■

・「PDFのコピー禁止のフラグを無視する」という行為のみは違反ではないが、テキストファイルを抜き出す行為が複製権を侵害する可能性がある。

■過去の例■

・複製が著しく短時間であった場合、複製権ではないと認められた判例がある。 ex) スターデジオ事件／0.7秒。

■解決策■

・複製には原則として許諾が必要となる。C大学の代理投稿人Bが代理投稿を行う場合、全文検索のための手順について、権利者Aから許諾を取る必要がある。

・NIIがC大学に対して**表明・保障責任**を負わせれば、NII側はリスク回避できる。

■課題■

・実際にC大学が**表明・保障責任**を違反してしまった場合、C大学の責任となるため、NIIは責任リスクを回避できるが、社会的信用については問題が残る。

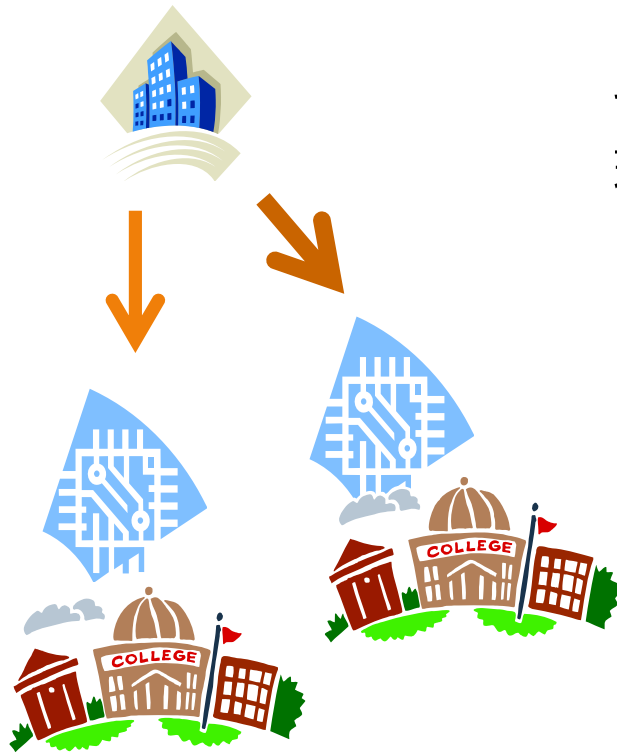
PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題2の整理

■問題の所在■

・複製権を侵害する恐れのあるプログラムを搭載したWEKOをオープンソースとして配布することによって**著作権102条の2**の違反になる可能性がある。

前述のとおり，ファイルが複製されている時間が極端に短い場合は（1秒以内）複製権の侵害に当たらない可能性も高いが、利用環境等に依存するため，NIIでは処理時間をコントロールできない。



〈参考〉

著作権法120条の2

次の各号のいずれかに該当する者は、3年以下の懲役若しくは300万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

〈1〉 技術的保護手段の回避を行うことをその機能とする装置（当該装置の部品一式であつて容易に組み立てることができるものを含む。）若しくは技術的保護手段の回避を行うことをその機能とするプログラムの複製物を公衆に譲渡し、若しくは貸与し、公衆への譲渡若しくは貸与の目的をもって製造し、輸入し、若しくは所持し、若しくは公衆の使用に供し、又は当該プログラムを公衆送信し、若しくは送信可能化する行為（当該装置又は当該プログラムが当該機能以外の機能を併せて有する場合にあつては、著作権等を侵害する行為を技術的保護手段の回避により可能とする用途に供するために行うものに限る。）をした者

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

課題2の整理

■解決策■

- ・ 実証実験で1秒以内であることを確認したうえで、スペック等の利用環境を推奨環境として挙げたうえでの配布が考えられるが、確実ではない。

■課題■

- ・ リスクを負った上でWEKOをオープンソースとして配布するのか。
- ・ リスクを恐れて配布を控えた場合、WEKOを使った新しいプログラムの開発の芽をつぶしてしまうことにならないか？

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

●●参考1●●

24頁の論文のPDFと5頁の論文のPDFを用意し、WEKO開発業者さんに実際にテキストをコピーしてメモリに読み込み、テキストファイルを消去するまでの計測実験を行っていただきました。

パターン1: 24頁の論文をテキストコピーしてメモリに読み込むまでの時間

パターン2: 5頁の論文をテキストコピーしてメモリに読み込むまでの時間

パターン3: 24頁の論文と5頁の論文両方をテキストコピーしてメモリに読み込むまでの時間

	処理時間[s]										平均
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	
パターン1	0.2849	0.1880	0.1277	0.1385	0.1167	0.0974	0.0835	0.0834	0.0826	0.0844	0.1287
パターン2	0.0591	0.0792	0.0566	0.0620	0.0565	0.0567	0.0570	0.0567	0.0563	0.0570	0.0597
パターン3	0.1414	0.1415	0.1456	0.1413	0.1456	0.1430	0.1443	0.1532	0.1453	0.1429	0.1444

◆時間計測環境

OS : CentOS 5.1

CPU : Core2 Duo @ 3.00GHz

メモリ : 4.0GB

Apache : 2.2.3

MySQL : 5.0.51a

PHP : 5.1.6

NC2 : 2.4.0(最新版)

WEKO : 2.0.3(最新版)

全文抽出ソフト(pdf totext) : 3.0.0

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

●●参考1●●

今回の論点の整理では言及していませんが、テキストの抽出の前にPDFをアップロードした段階でサムネイル作成のためPDFをコピーする作業があります。厳密に言えばこれも複製権の侵害とされてしまう可能性があります。これも前実験と同じ環境で計測実験をお願いしました。

パターン1: 24頁の論文のPDFをコピーしてサムネイルを作成するまでの時間

パターン2: 5頁の論文のPDFをコピーしてサムネイルを作成するまでの時間

パターン3: 24頁の論文と5頁の論文両方をコピーしてサムネイルを作成するまでの時間

	処理時間[s]										平均
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	
パターン1	0.4905	0.6740	0.5012	0.4842	0.4868	0.4974	0.4912	0.4778	0.4826	0.4868	0.5072
パターン2	0.3518	0.3665	0.3549	0.3711	0.3497	0.3669	0.3730	0.3575	0.3549	0.3704	0.3617
パターン3	0.8022	0.6105	0.7124	0.8068	0.7928	0.7991	0.8492	0.8046	0.7927	0.6010	0.7571

PDF全文検索に伴う複製権の侵害に係る諸問題の整理

●●参考2●●

送信可能化された情報の送信元識別符号の検索等のための複製等

（著作権法上第47条の6）

インターネット情報の検索サービスを業として行う者（一定の方法で情報検索サービス事業者による収集を禁止する措置がとられた情報の収集を行わないことなど、政令（施行令第7条の5）で定める基準を満たす者に限る。）は、違法に送信可能化されていた著作物であることを知ったときはそれを利用しないこと等の条件の下で、サービスを提供するために必要と認められる限度で、著作物の複製・翻案・自動公衆送信を行うことができる。

→複製権の侵害にあたらなない？



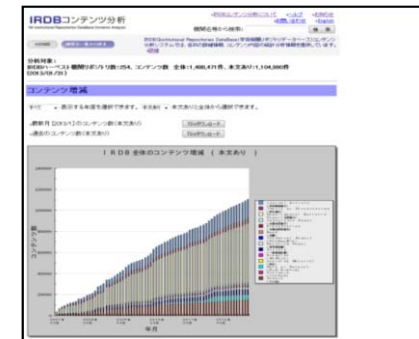
IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析

- 正式名称 Institutional Repositories DataBase
- 2008年8月より公開されたリポジトリに登録されたコンテンツを分析するためのデータベース。
- 個々の学術情報の詳細情報を調べることができる。
- 各機関リポジトリのコンテンツ内容の統計分析を見ることができる。
- 現在 (2013. 3. 11.)

ハーベスト機関：259機関

コンテンツ数：1,503,189件

本文有コンテンツ数：1,116,466件



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 視点

視点①

量

コンテンツが多いリポジトリはどんなリポジトリ？

視点②

質

どんなコンテンツで構成されているのか？

GreenOAはどの程度実現しているのか？

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題の整理

課題①

機関タイプ別分析

なにがコンテンツ増加に寄与しているのか。

課題②

Green0Aの実現度。

Green0A はどの程度実現されているのか。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 前提条件

データ分析対象

2008年の4月～2012年の10月のデータ
本文有データのみ

前説

GreenOAとは何か？

IRDBコンテンツ分析において下記のような前提条件
で分析していく。

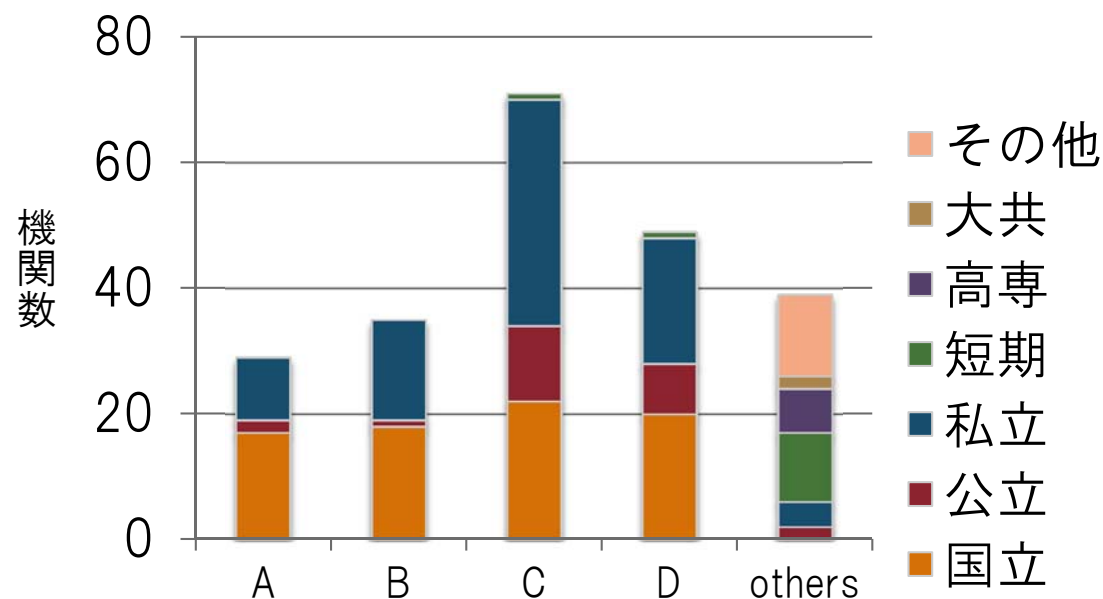
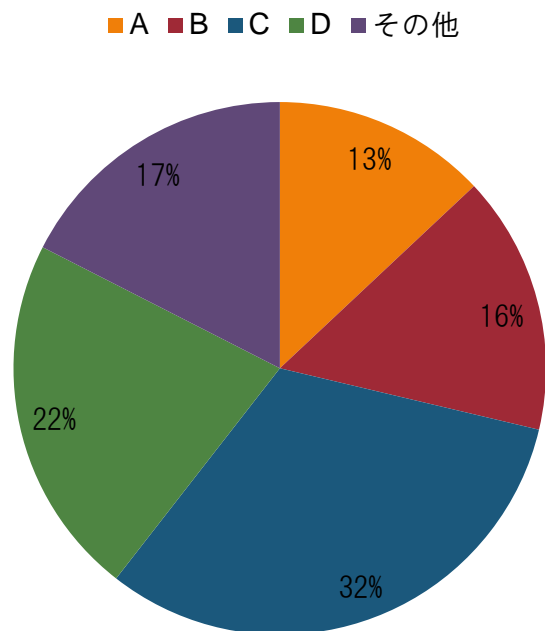
Journal Article=GreenOAコンテンツ

※実際のコンテンツの登録データには揺れがあり、
JAの中に紀要、または学内刊行物が登録されている
場合も、多くありますのでこの分析は一つの目安で
す。

基礎データ整理 どんな機関が参加しているのか？

ABCD／文科省による平成23年度学術情報基盤実態調査によるランク付け。

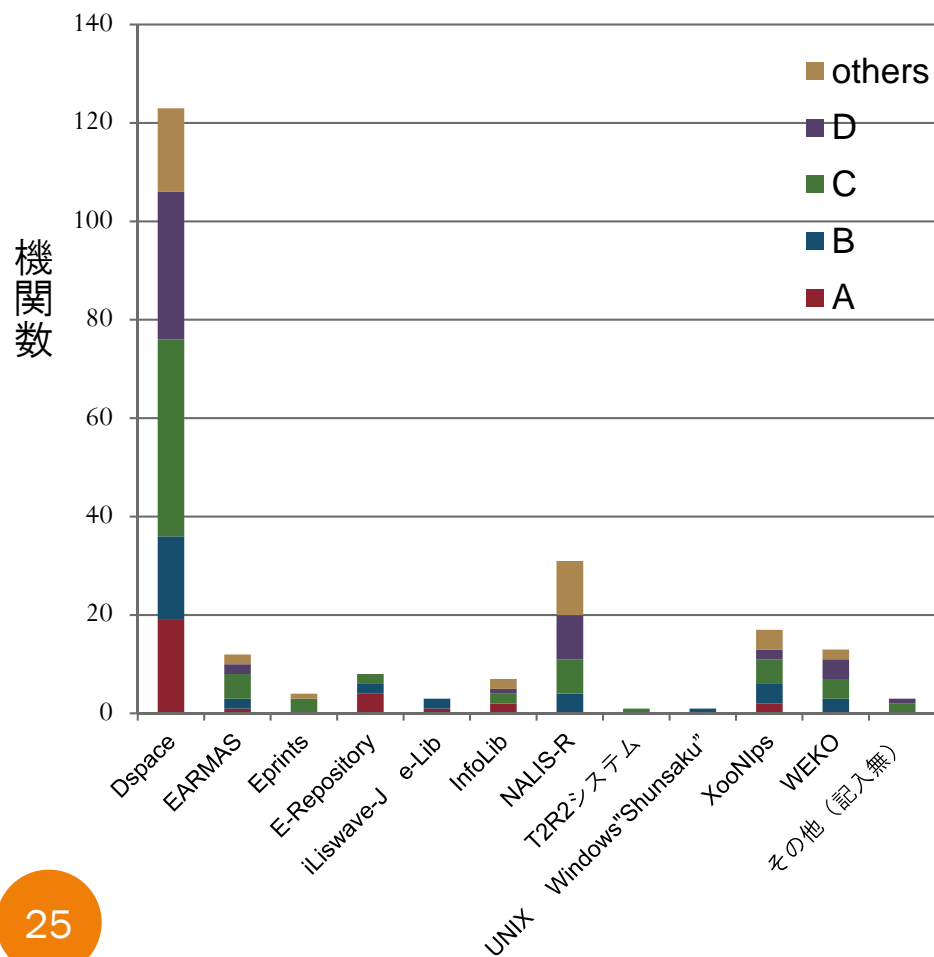
大学規模別 機関数



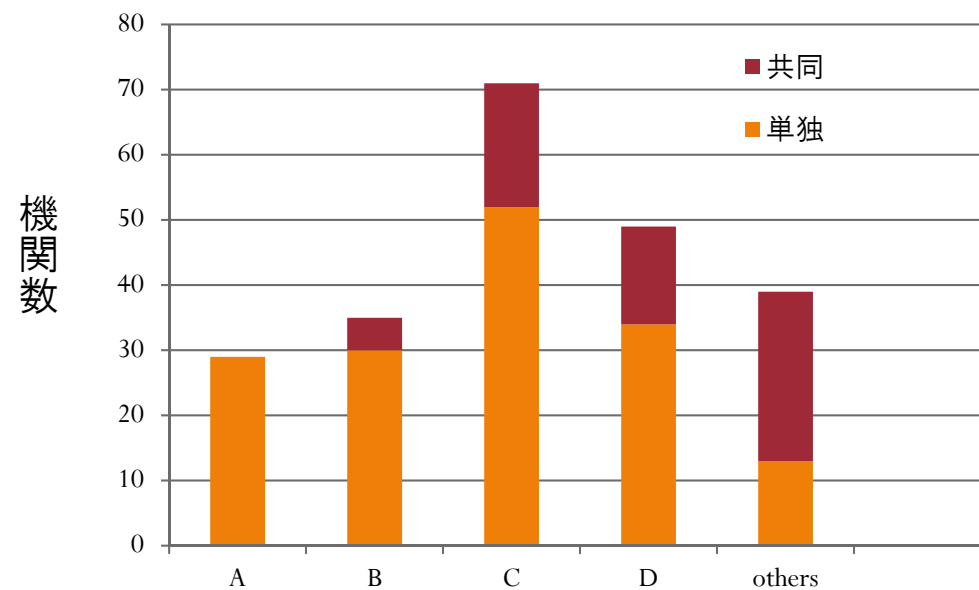
基礎データ整理

どんなソフトウェアを使っている？形態は？

ソフトウェア別内訳



運営形態

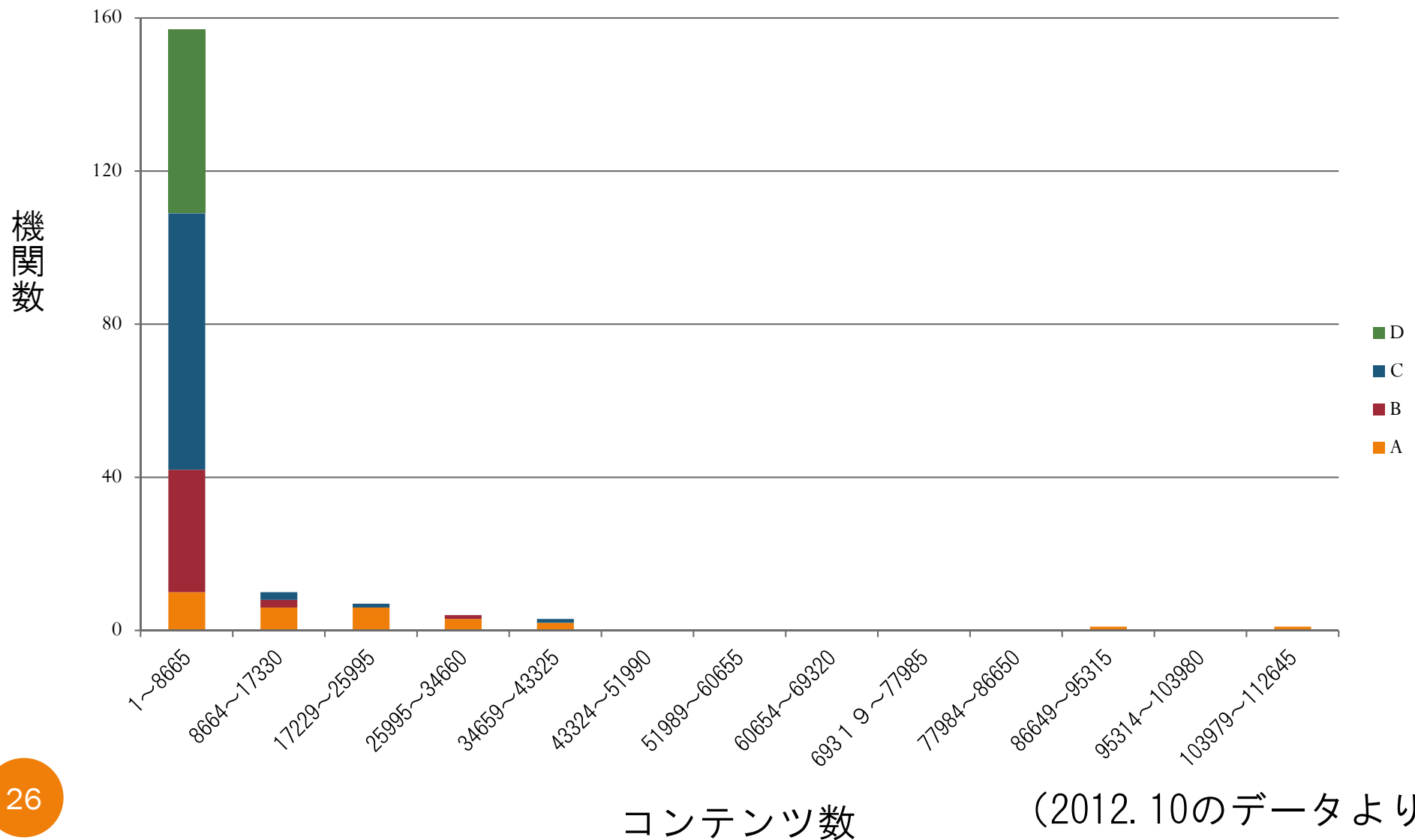


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析

課題1

コンテンツ数によるリポジトリ機関の分布（本文有コンテンツ）

※ABCDで大学ランク別に色分け



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

大学名	本文有コンテンツ数
京都大学	112645
千葉大学	88416
東北大学	40037
北海道大学	37978
お茶の水女子大学	35554
岡山大学	30648
金沢大学	28085
東京大学	27420
筑波大学	27229
慶應義塾大学	25166

本文有コンテンツを持つ機関：**221機関**
本文有全コンテンツ数：**1,074,733 件**

Top10の大学の持つコンテンツだけで
全コンテンツの**44%**をカバー

(2012.10のデータより)



コンテンツ数が多い大学にはどういう傾向があるのか？

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

- リポジトリ運営日数？
- 大学規模レベル？ = (学部数)
- 学位授与数？
- 国立か私立か？
- 論文産出量か？



コンテンツ数が多さにはどの要素が関係してくる？

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

運営日数のランキング

※運営日数はIRDBに申請された試運転開始日と本運営開始日をそれぞれ日数で算出し直し、早い方を採用

順位	大学名	運営日数
1	関東学院大学	3288
2	鹿児島大学	3207
3	千葉大学	2782
4	早稲田大学	2722
5	北海道大学	2630
6	山口大学	2456
7	名古屋大学	2455
8	慶應義塾大学	2434
9	熊本大学	2376
10	金沢大学	2375
11	東京大学	2375
12	広島大学	2364
13	九州大学	2362
14	長崎大学	2348

本文有コンテンツ数のランキング

(2012. 10のデータより)

順位	大学名	本文有コンテンツ数
1	京都大学	112645
2	千葉大学	88416
3	東北大学	40037
4	北海道大学	37978
5	お茶の水女子大学	35554
6	岡山大学	30648
7	金沢大学	28085
8	東京大学	27420
9	筑波大学	27229
10	広島大学	24896
11	長崎大学	22790
12	九州大学	21679
13	大阪大学	21400
14	神戸大学	14668

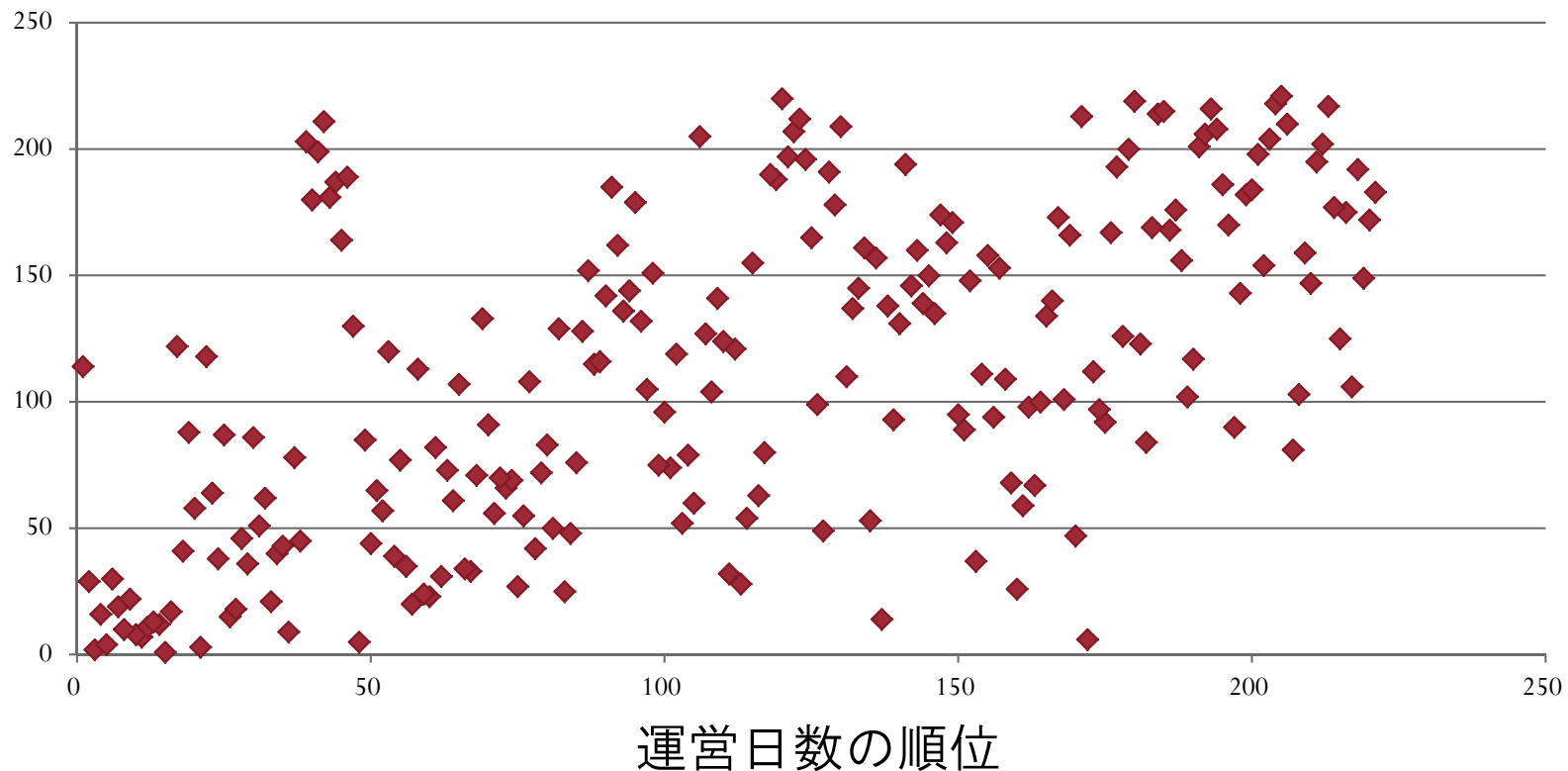
まず運営年数のランキングとコンテンツ数のランキングを並べてその順位数に注目します。このランキングの数には関係があるのかな？

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

運営日数とコンテンツ数の順位相関の散布図（2012. 10のデータより）

0に近いほどコンテンツ数が多い機関なのです
↓

本文有コンテンツ数の順位



← 0に近いほど運営日数の値が多い機関なのです

相関係数：0.601659755527469

一般的に相関係数が一般的に0.3~0.7の間にあると相関があると言われていています。相関係数が0.7に近い方が相関が強いです。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

相関係数が0.6という高い値が出たので相関がある可能性が高いです。この相関が偶然のものではないか確かめなくてはなりません。



スライド30からの仮説：運営日数の順位とコンテンツ数の順位には相関がある。

検定のために真逆の仮説を立てます。運営日数の順位とコンテンツ数の順位には相関がない。 / 帰無仮説

つまり相関係数=0 / 帰無仮説

検定するための統計量を算出する。

標本の大きさ（データの組数）を n 、相関係数を r として検定統計量を計算。検定統計量 = $|r| \sqrt{(n-2) / (1-r^2)}$

相関係数が0の場合理論的に様々なサンプルがどのような相関係数の分布図を見せるのかを検討する。

自由度 ($n-2$) と有意水準（一般的に0.5 / 100回に5回しか起こらない）を決めて、限界点（理論的な分布の図からこの絶対値より大きくなる値が5%）の値を調べる。

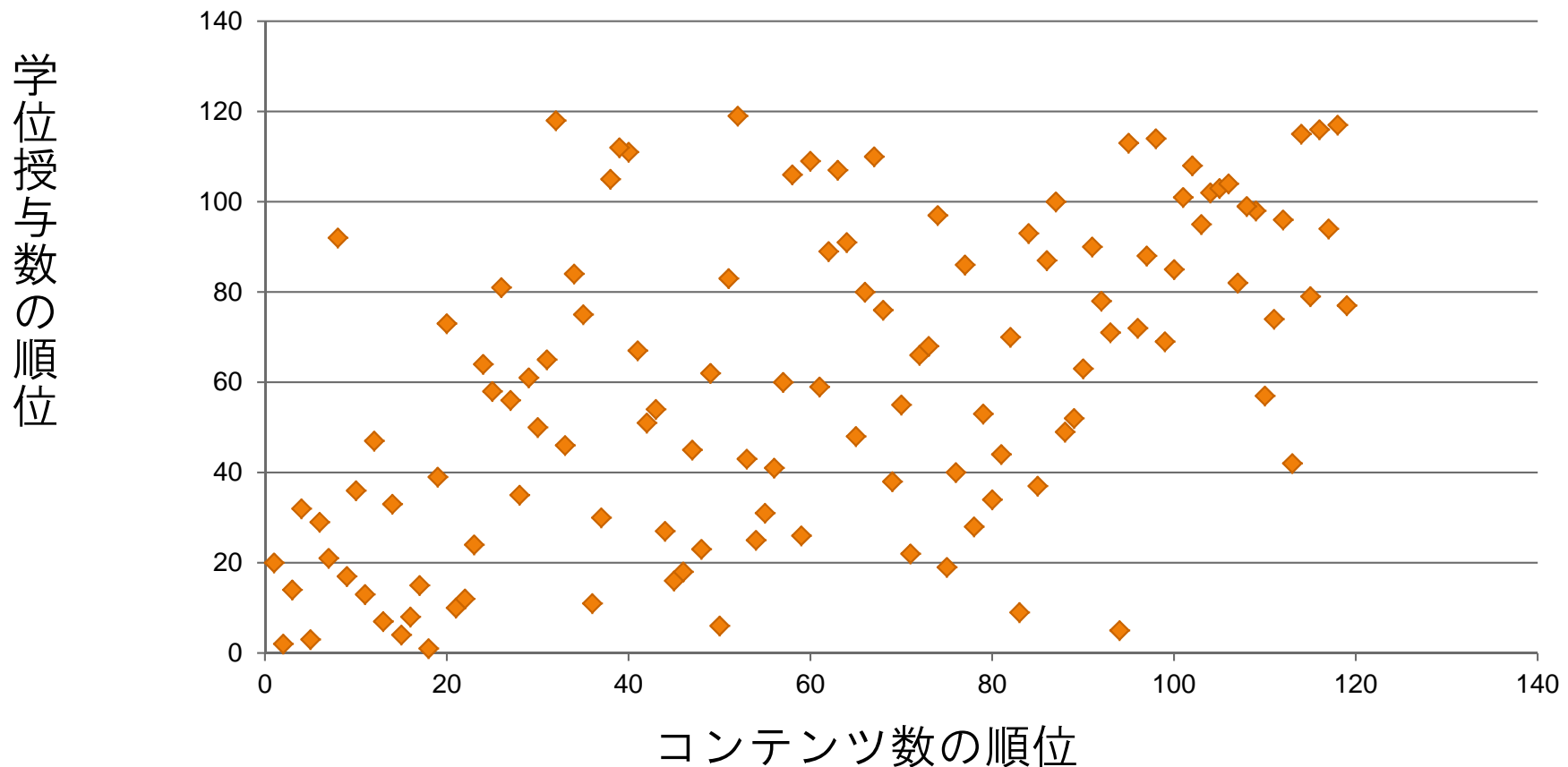
検定統計量の絶対値が限界点より大きければ、帰無仮説は棄却される。

相関係数は0.6とでたが5%の有意水準で有意である（=意味がある）

相関で二つのデータの関係性をチェックした後に確認のためこの作業をします。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

2007年学位授与数×コンテンツ数の順位相関



相関係数：0.572498249666389

自由度115 相関係数0.57

検定統計量 = $|7.43943103027471| > 1.960$

学位授与数はDBRのデータをもとにしています。
2007年のデータを採用しているのは学位授与数の数がDBRに反映されることが遅いことを鑑みて最新でかつ授与数の多い2007年を採用しました。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

それぞれの順位の関係性

※大学の規模レベル(学科数)A=1, B=2, C=3, D=4, で 相関関係を計算

	相関係数 (順位相関)
①本文有コンテンツ(2012. 10) × 大学の規模レベル	0. 62067773802335
②本文有コンテンツ(2012. 10) × リポジトリ運営日数	0. 601659755527469
③本文有コンテンツ(2012. 10) × 2007年の学位授与数	0. 572498249666389

①検定統計量=11. 773860100936>1. 960

おまけ

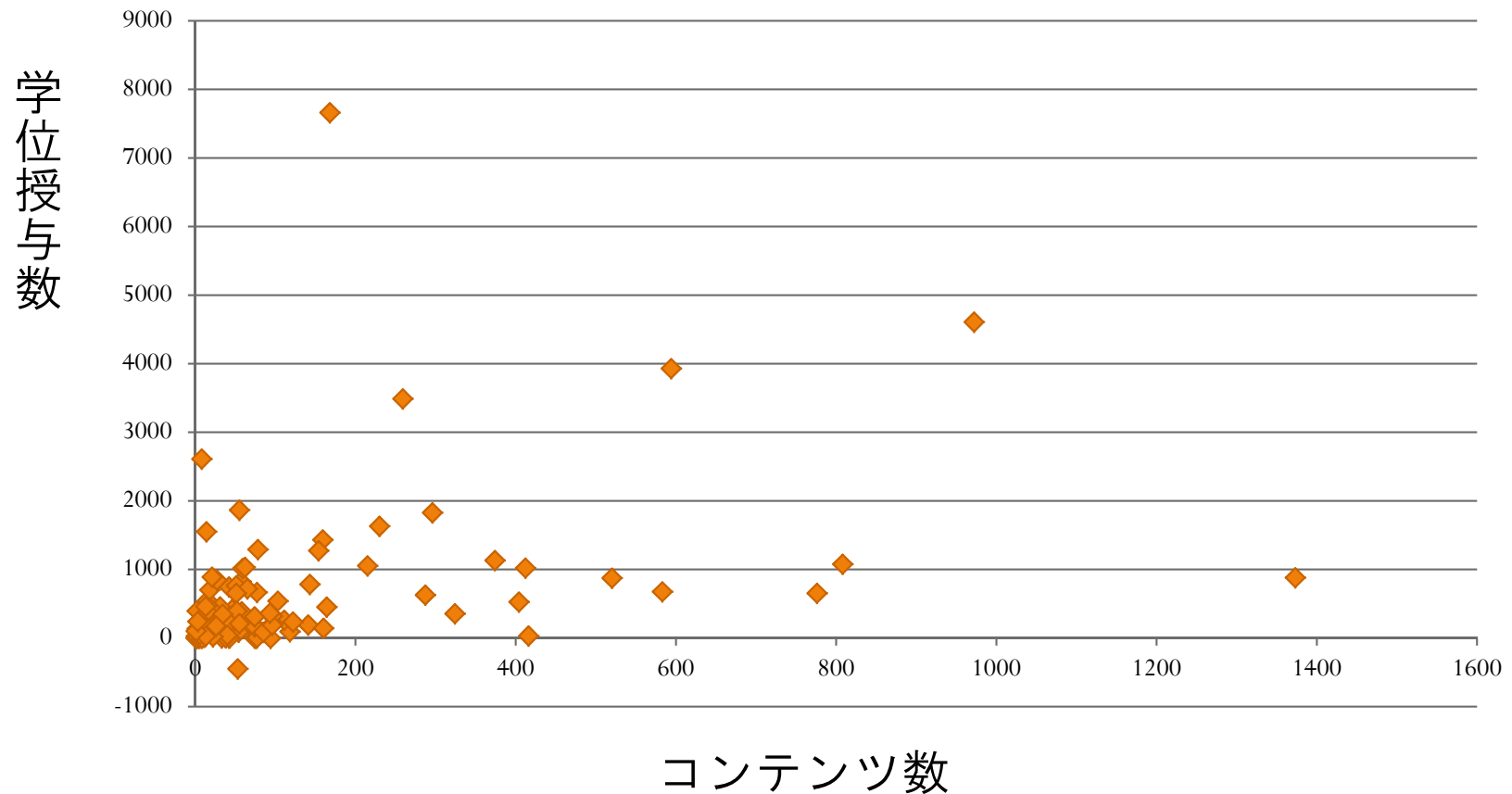
	相関係数 (順位相関)
本文有コンテンツ(2012. 10) 国立大学のみ × 平成22年度に公表された国立大学運営費交付金反映の ための国立大学ランキング	0.283623962051578

リポジトリコンテンツ数はあまり重要視されている指標とは言えないようです。

検定統計量=2. 49200109238428

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

学位授与数と本文有コンテンツ数



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

ピアソンの積率相関係数

	相関係数
①本文有コンテンツ (2012. 10) ×大学の規模レベル	-0. 452329571
②本文有コンテンツ (2012. 10) ×リポジトリ運営日数	0. 3971090153
③本文有コンテンツ (2012. 10) ×学位授与数 (2007)	0. 39515805
④本文有コンテンツ (2012. 10) ×累積研究論文産出量 (2002-2011)	0.598663799
⑤大学の規模レベル×リポジトリ運営日数	-0. 31308866928

①検定統計量=6. 08669179832666 ②検定統計量=5. 36472871717071 ③検定統計量=4. 59703111242005
④検定統計量=6. 50438988990508 ⑤検定統計量4. 35022281545287

※順位相関で出した際より係数が下がるのは変数の値が極端に大きいものがあるため

※研究論文産出量は文科省から2012年8月に発行された「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング」より。2002年から2011年の総論分数 (WoS) が1000本以上あるもののみを選出している。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題1

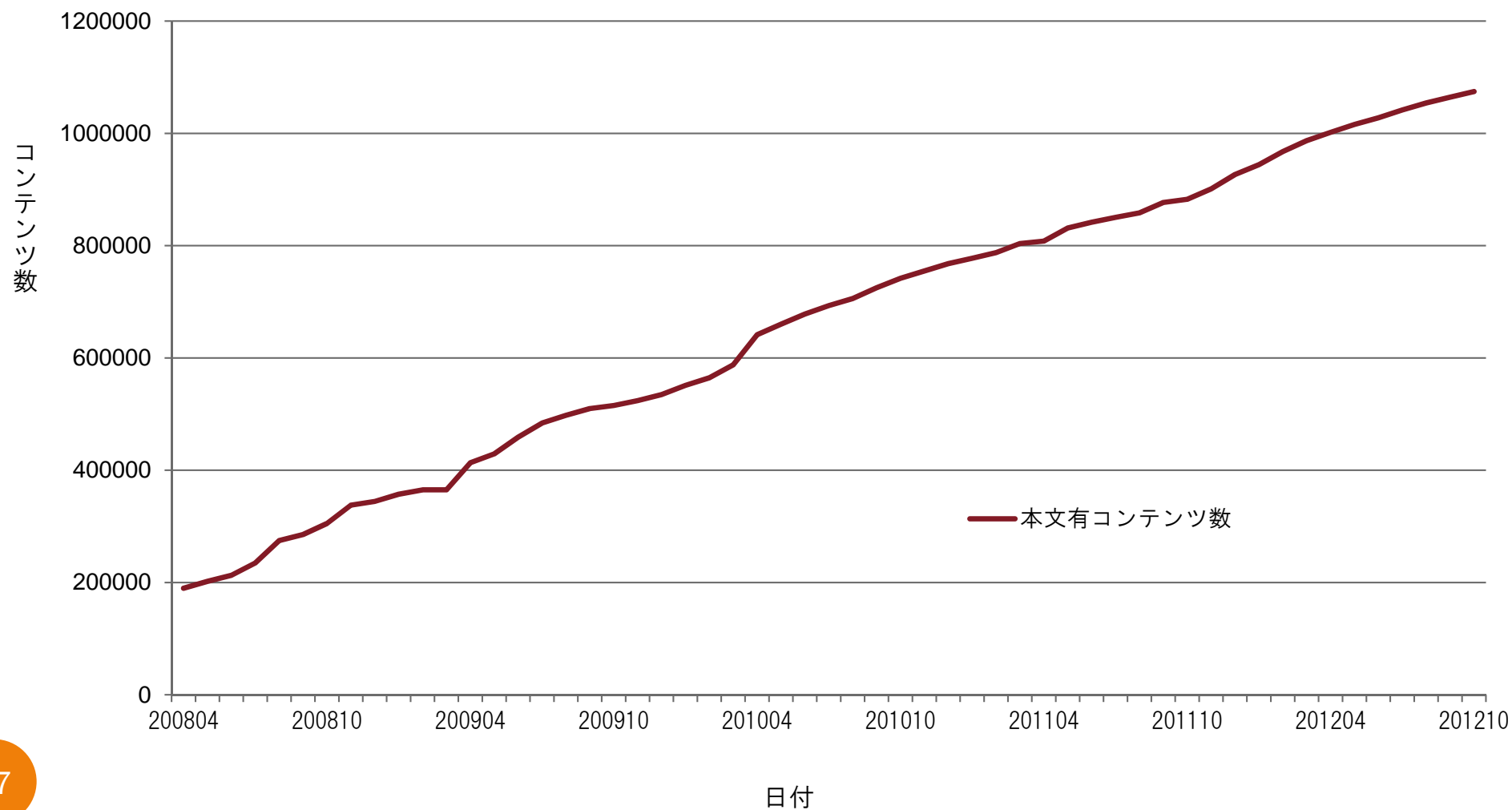
- 大学の規模や運営年数，学位授与数コンテンツ数の間には比較的弱い相関しかない。

→小さな機関，運営年数の短い機関でもコンテンツを増やしていける可能性がある。



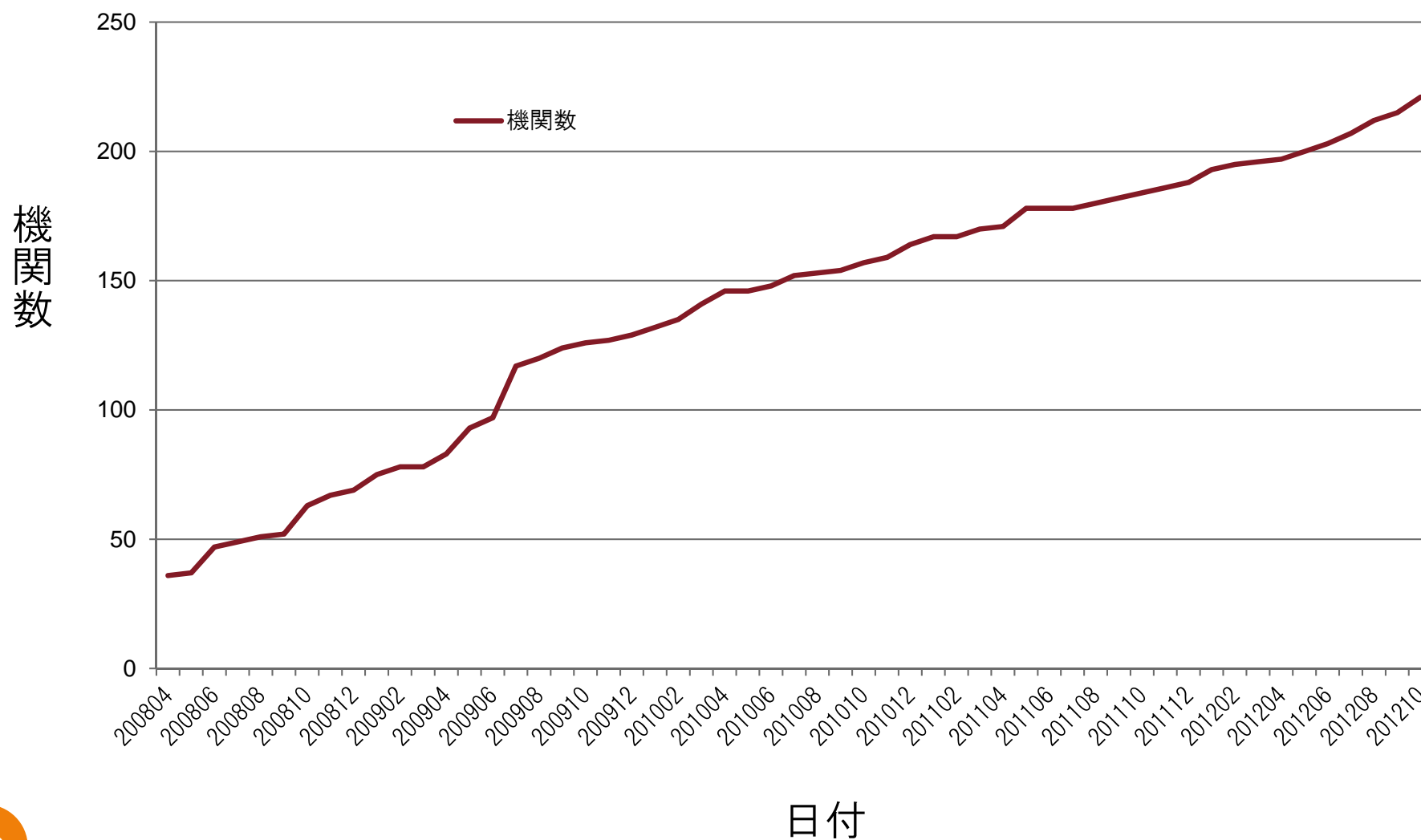
IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

本文有累積コンテンツ数

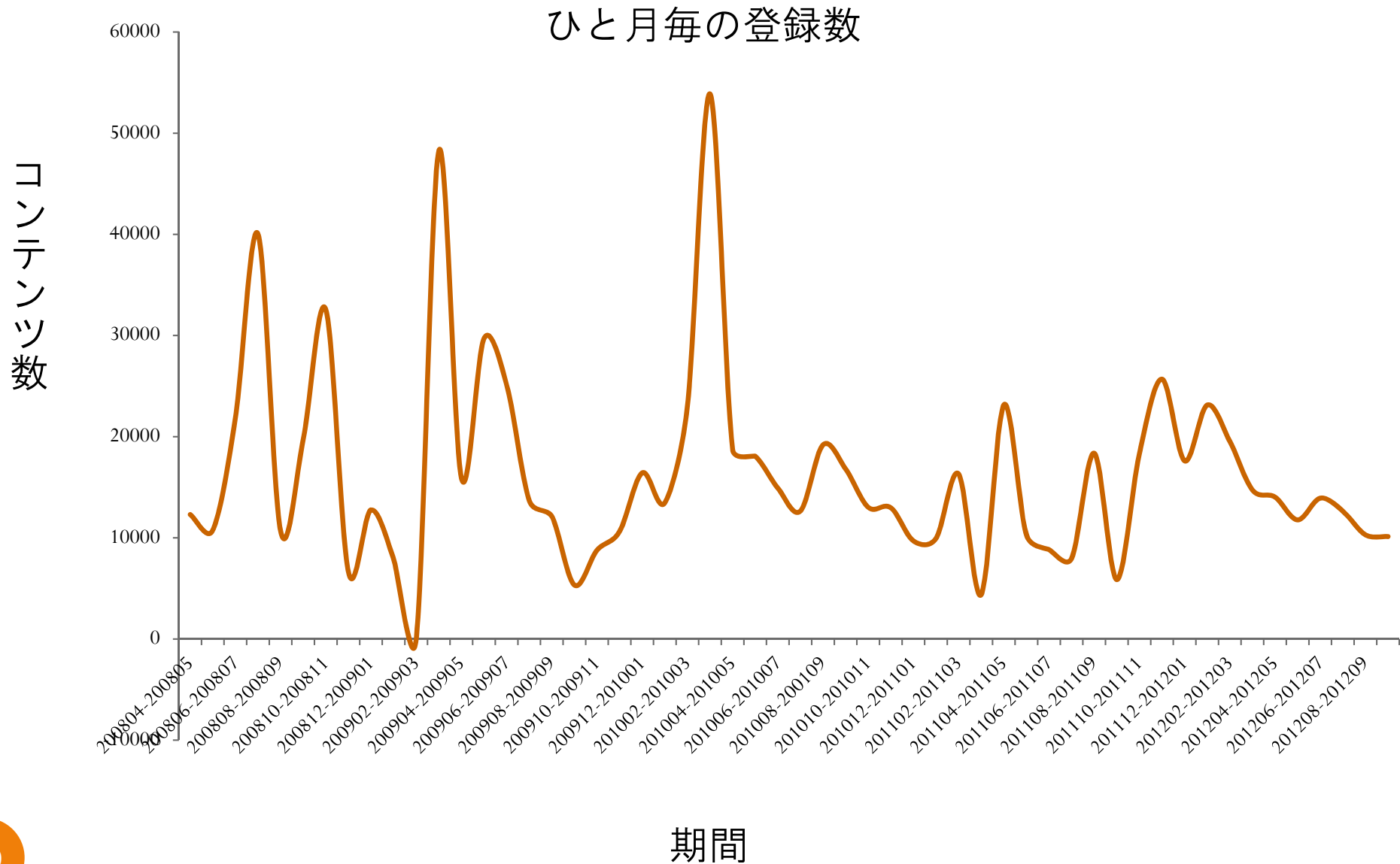


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

累積機関数（本文有コンテンツ）

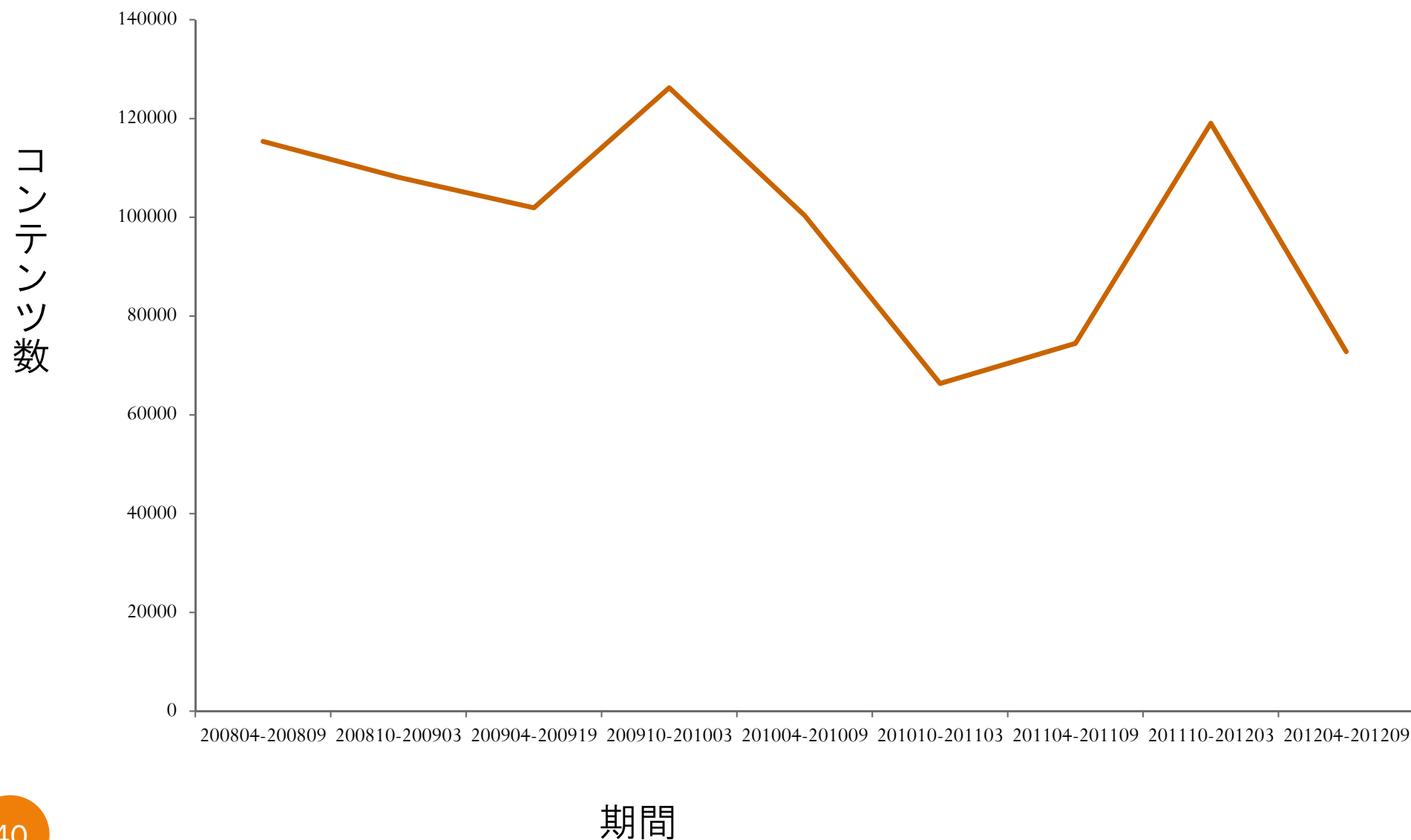


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

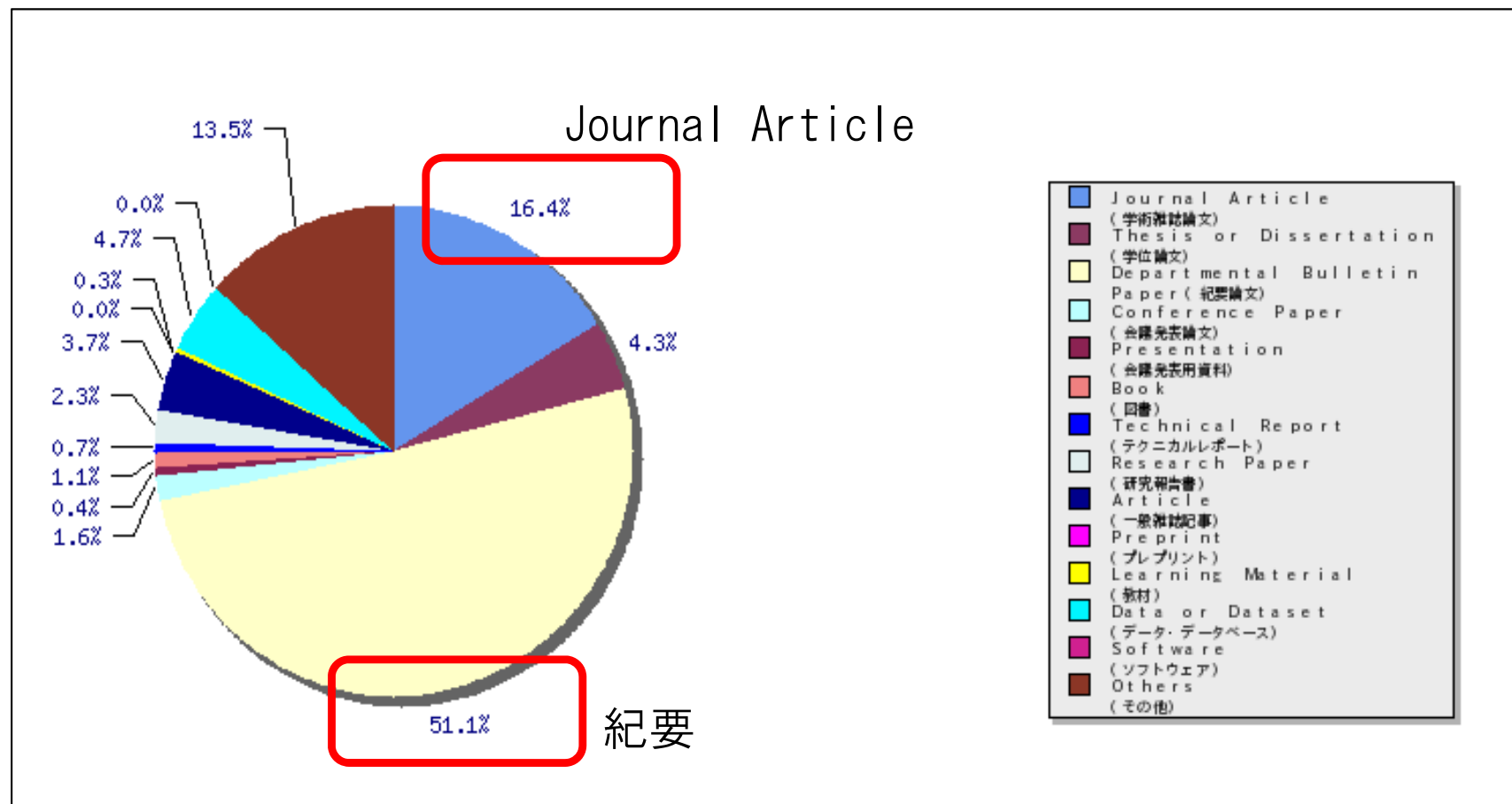


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

半年毎の登録数

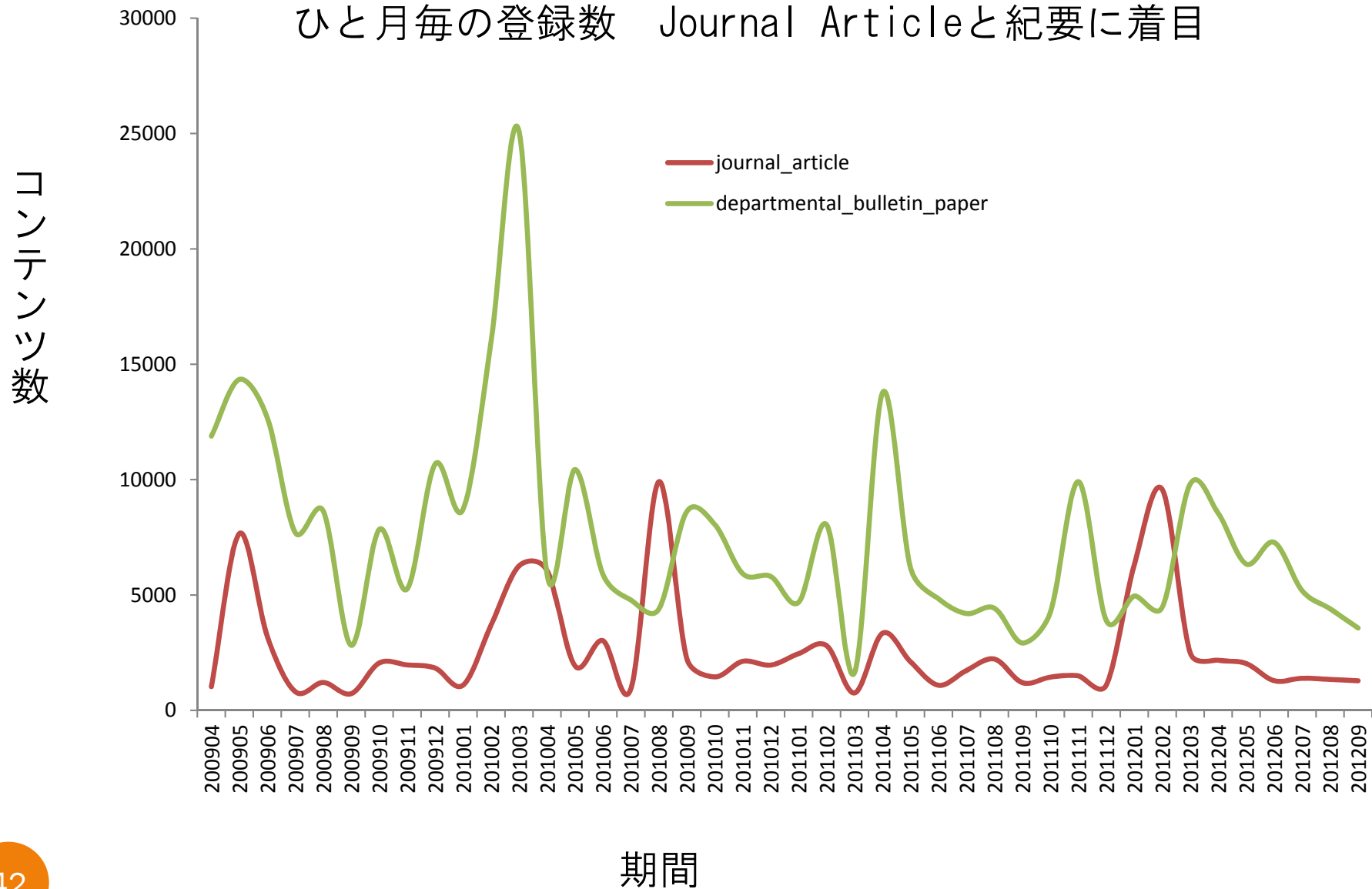


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2



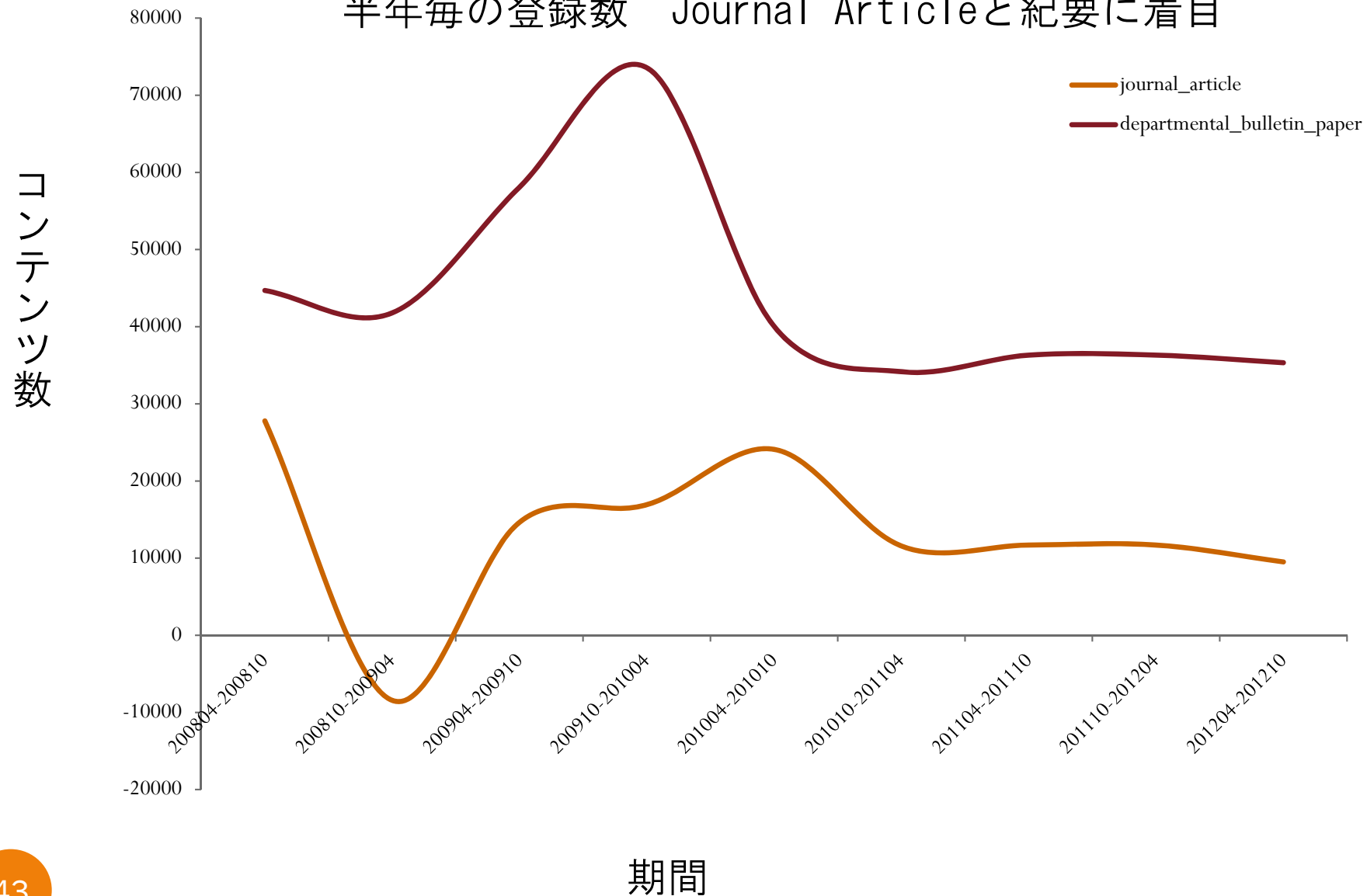
IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

ひと月毎の登録数 Journal Articleと紀要に着目



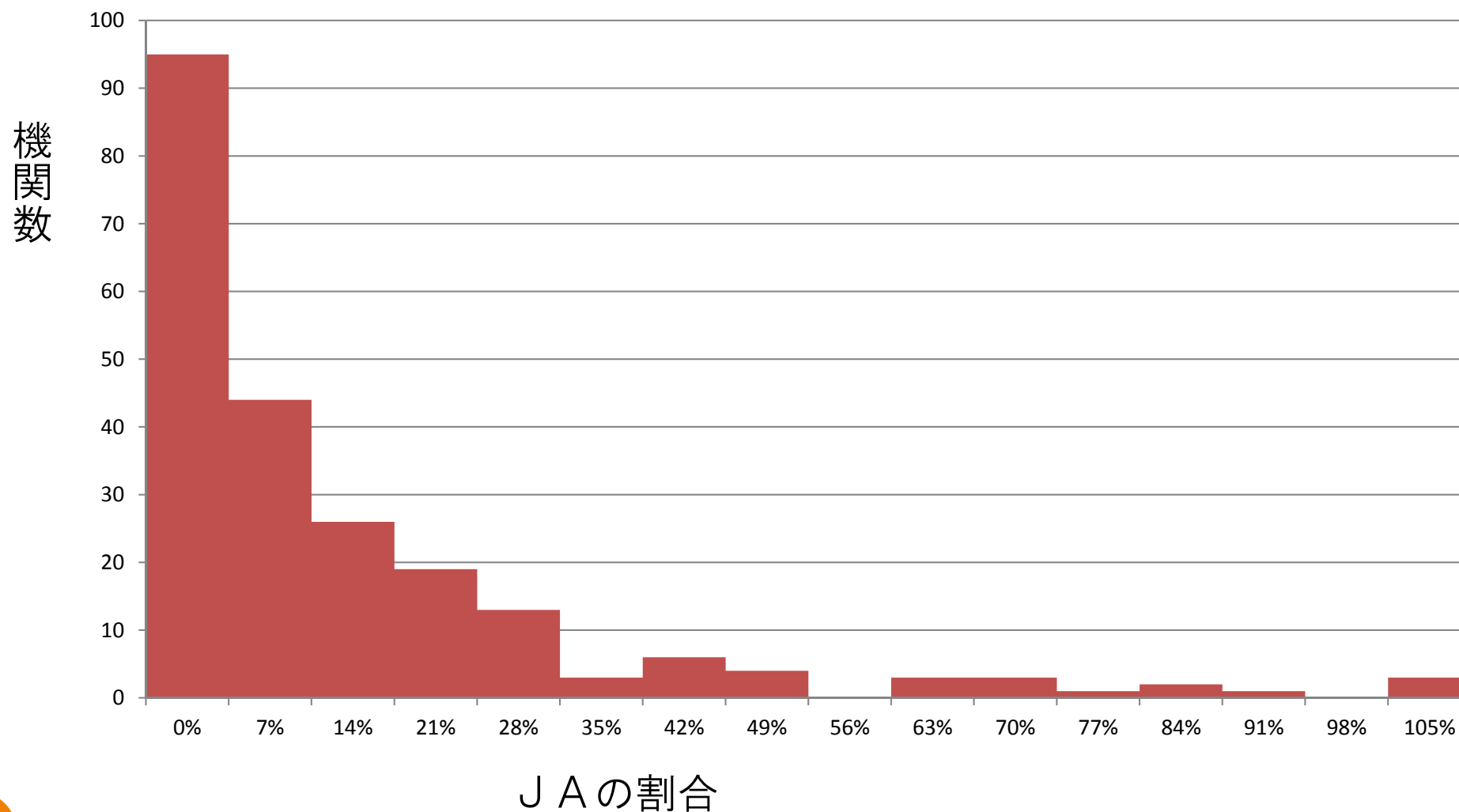
IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

半年毎の登録数 Journal Articleと紀要に着目



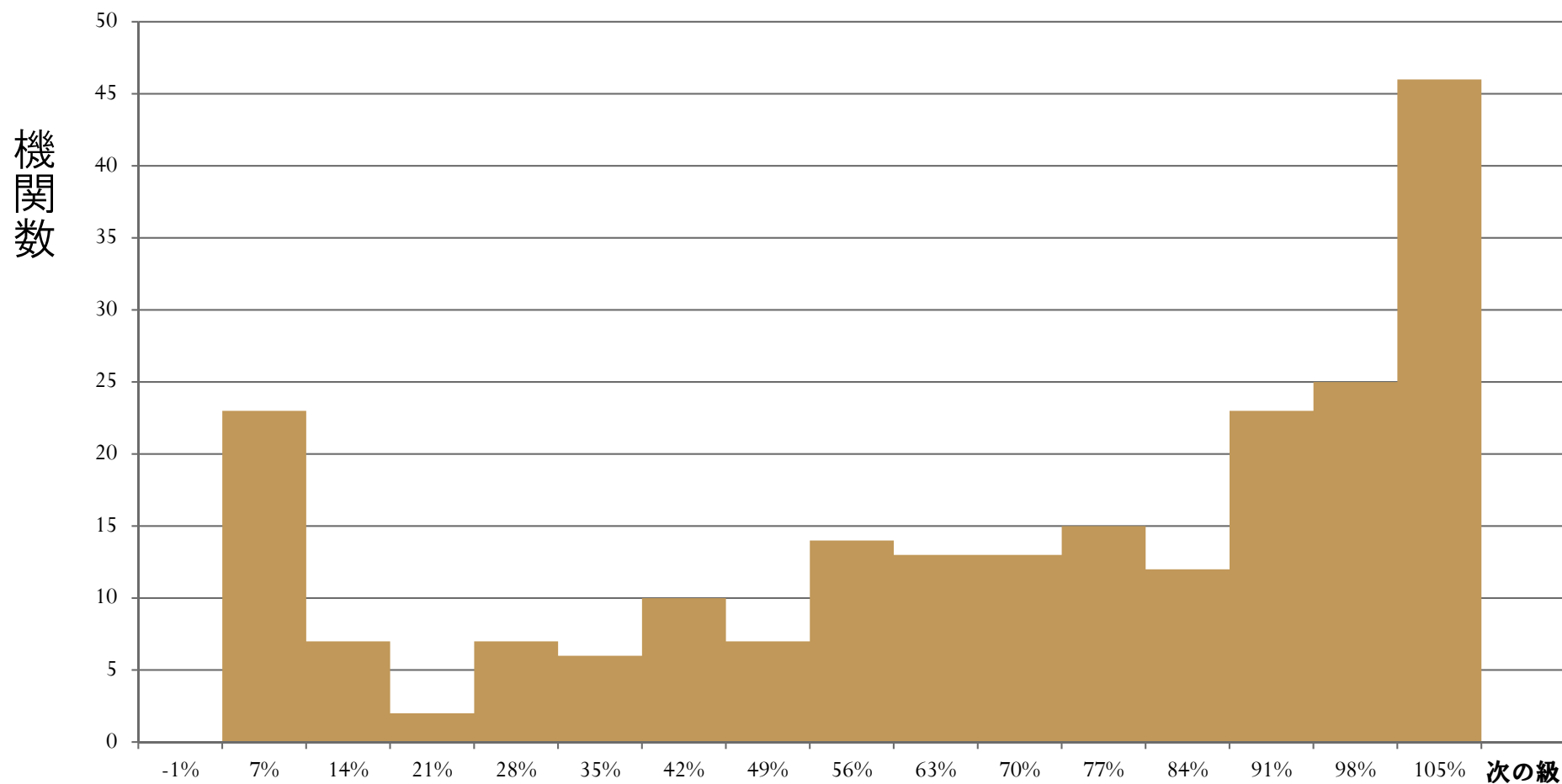
IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

コンテンツ内におけるJournal Article の割合のヒストグラム



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

機関内コンテンツ内における紀要の割合のヒストグラム



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

	大学名	捕捉率
1	北陸先端科学技術大学院大学	46%
2	旭川医科大学	32%
3	金沢大学	22%
4	浜松医科大学	22%
5	九州工業大学	18%
6	静岡大学	17%
7	北海道大学	16%
8	埼玉大学	16%
9	名古屋工業大学	15%
10	筑波大学	12%
11	信州大学	11%
12	広島大学	10%
13	横浜国立大学	10%
14	東北大学	9%
15	神戸大学	9%
16	京都大学	7%

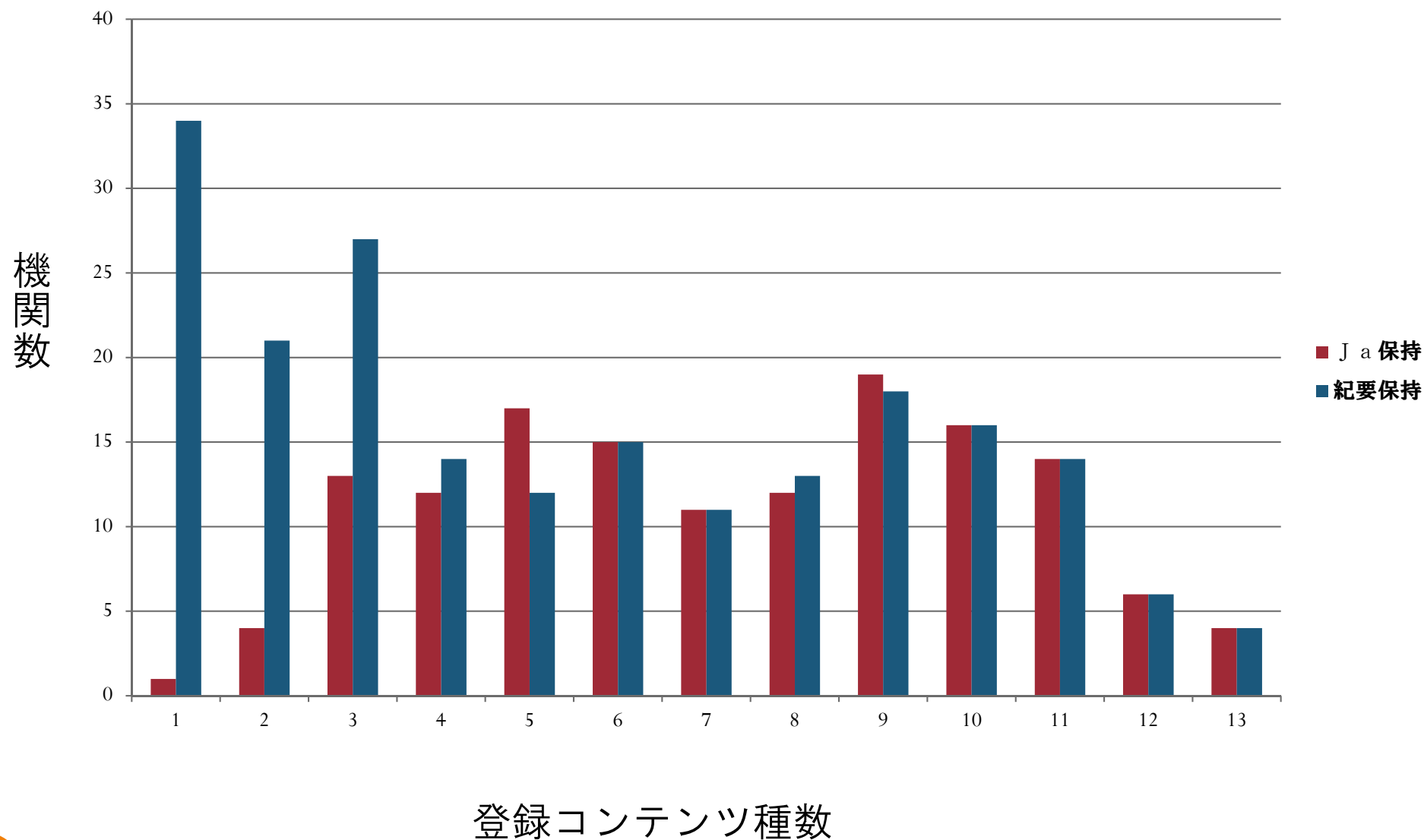
捕捉率の出し方＝

$$\frac{\text{doiが付与されたりポジトリ搭載論文}}{\text{WoSから抽出された論文産出量}}$$

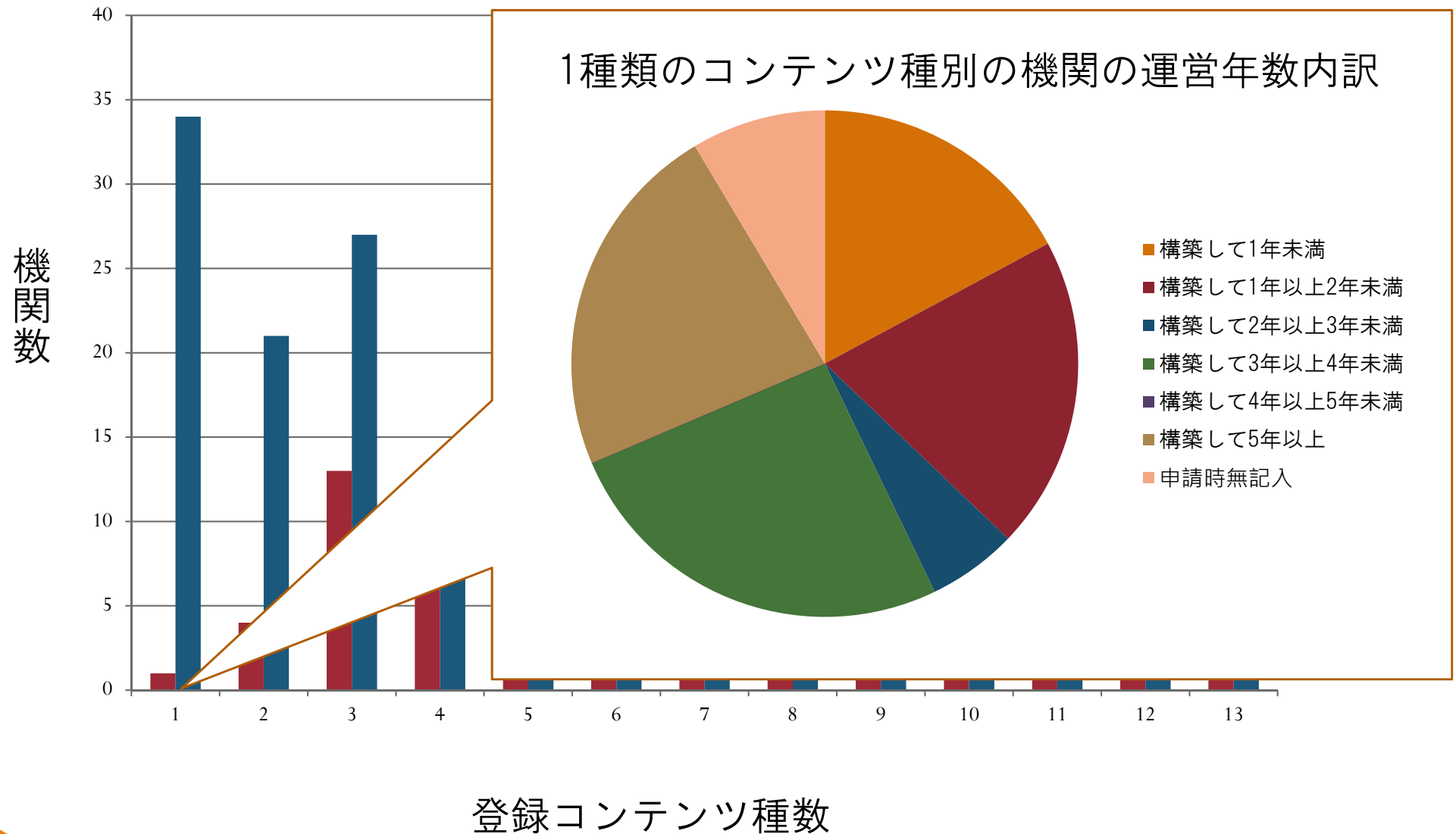
全体では**4%**

※捕捉率はあくまで目安です。

IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

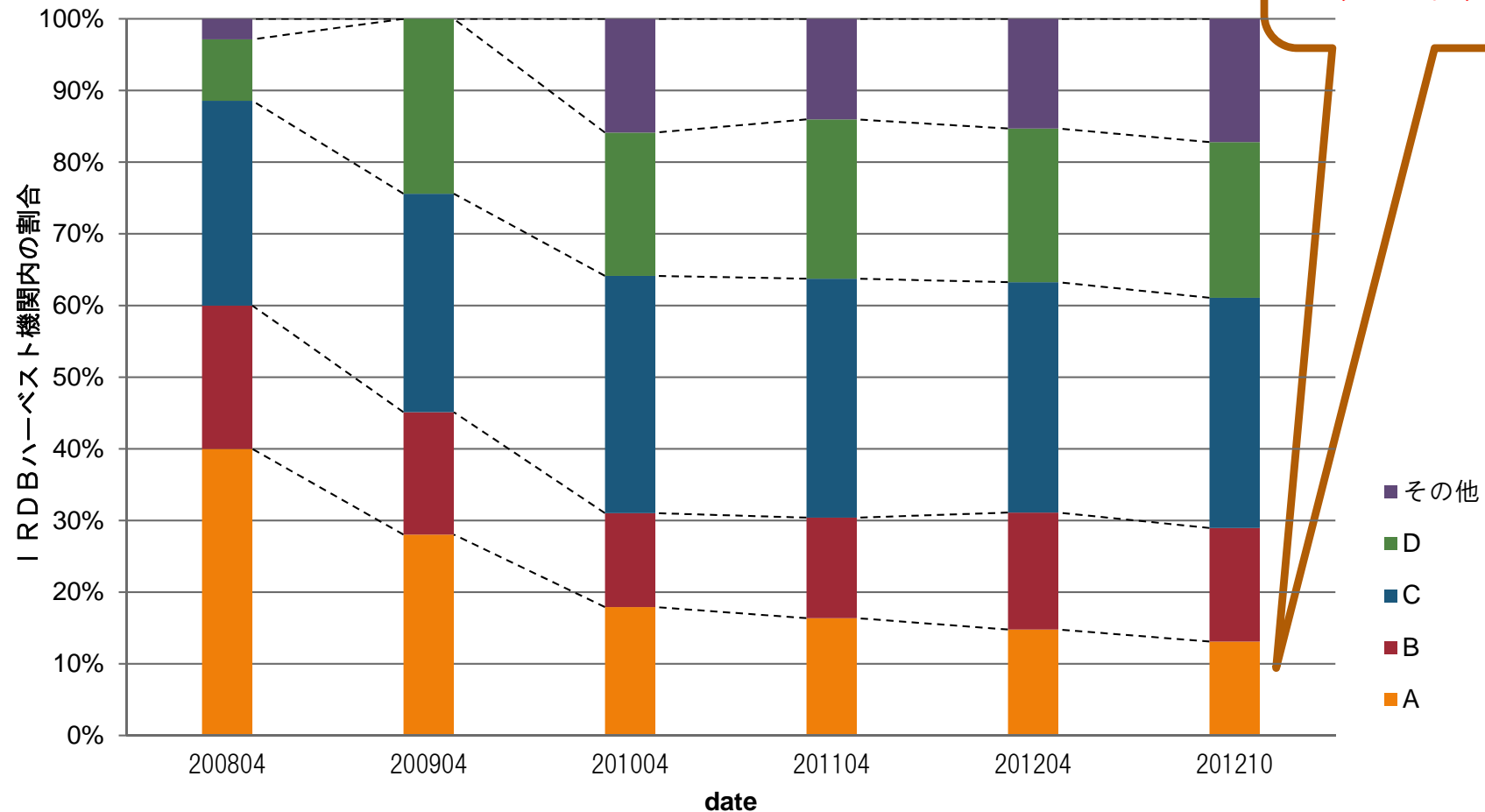


IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

登録機関レベル別推移



IRDBコンテンツ分析のデータから見る 機関リポジトリの現状の分析 課題2

- コンテンツ登録数も下がり気味
- 紀要は増減なしの平らな形の一方……
- Journal Articleは微減
- Journal Articleの機関コンテンツ内の割合→低い
- 紀要の機関コンテンツ内の割合→高い

→主要コンテンツは**紀要**？

- 論文産出量から見るとまだ4%しか登録されていない。

→まだノビシロがある？！

- 既に大きな大学は構築済。
→今後は中小機関（C～D機関）の紀要登録が期待される。

やっぱり
今後のGreenOAはあまり期待できないの……？



学術雑誌登録のワークフロー調査

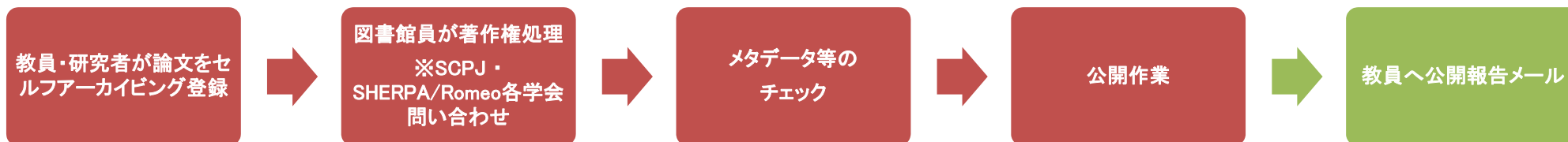
- JAはどのようなワークフローで登録されているのか。
- 京都大学(2013/2/25)
- 九州大学(2013/2/22)
- 京都大学は2008年10月より常に本文有コンテンツ数で1位。
doi付与論文数は北海道大学，東北大学に続き3位。
- 九州大学は文献自動収集・登録ワークフローシステムの開発を平成22年度～平成24年度CSI事業として申請。

学術雑誌掲載論文登録の流れ

※赤い部分は人の手で、青の部分はシステムティックな手順

●琉球大学●

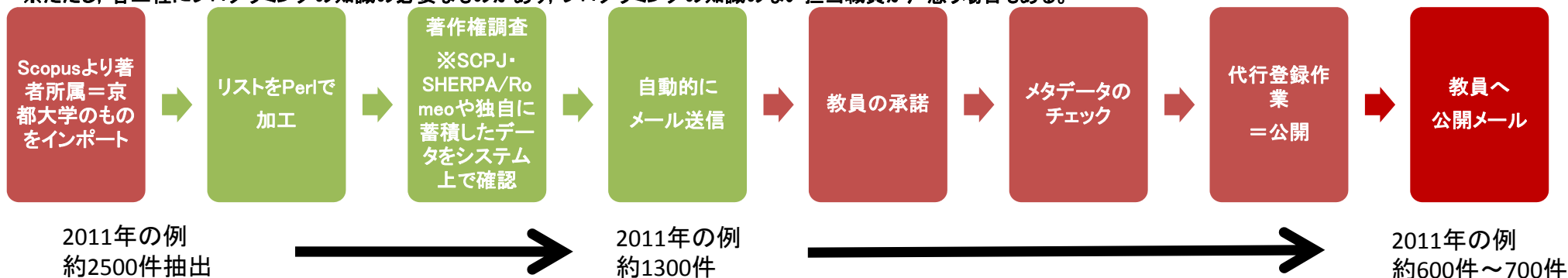
理想的ではあるが実現が難しいGreen OA 実際にはほとんど行われていない。



●京都大学●

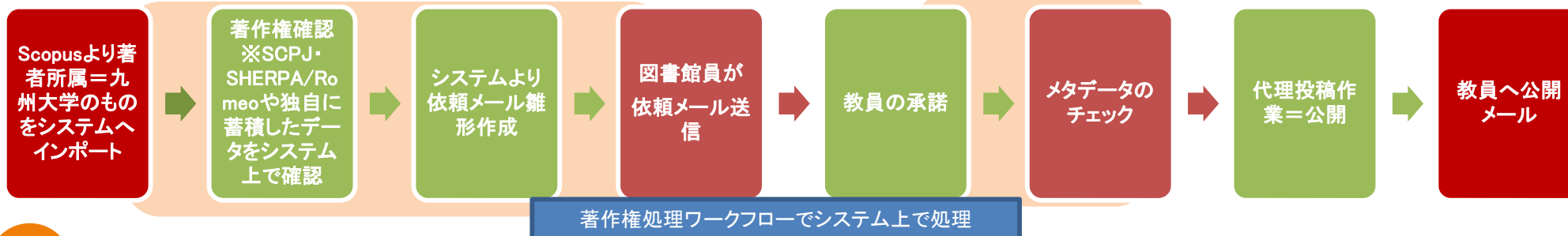
比較的Green OAを成功させている京都大学のモデル

※ただし、各工程にプログラミングの知識の必要なものがあり、プログラミングの知識のない担当職員が戸惑う場合もある。



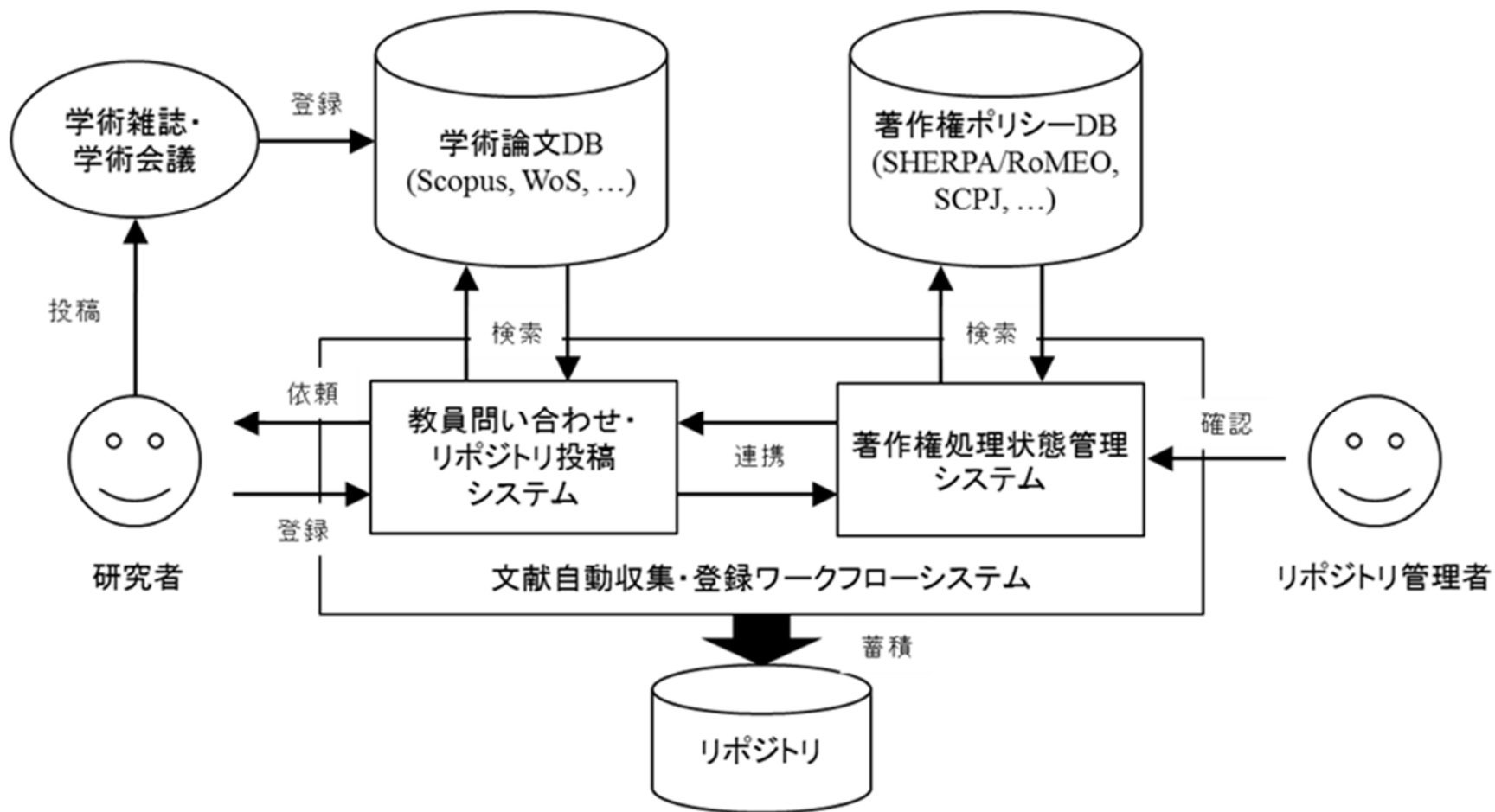
●九州大学●

11月から試行開始。プログラミングの知識がない職員でも可能なインターフェース。今後のGreenOAの促進に期待



文献自動収集・登録ワークフローシステム①

概要図



文献自動収集・登録ワークフローシステム② トップページ

R2R 案件管理 ▾ 雑誌管理 ▾ ユーザ管理 ▾ 設定 ▾ ログアウト

案件一覧 ②

キーワード

※ ステータスの指定がない場合はOPEN系のステータスのみが表示されます

著者ステータス ▾
出版社ステータス ▾
共著者ステータス ▾
著者_許諾結果 ▾
本文アップロード状況 ▾
エンバゴ満了日 ▾

ステータス一括変換 [BulkStatusChange plugin]
著者ステータス ▾ 出版社ステータス ▾ 共著者ステータス ▾

CSVエクスポート [ExportDefault plugin]

Page 1 of 2, showing 50 records out of 68 total, starting on record 1, ending on 50

ID	論文タイトル	主著者名	著者ステータス	出版社ステータス	共著者ステータス	公開可能バージョン	著者_許諾結果	本文アップロード状況	エンバゴ満了日	更新日時	
79	Species different...	馬場謙介	公開待ち	終了	終了	出版社版	OK(ファイルあり)	アップロード済み 📄		2013-02-27 10:45:26	操作
68	Ecological factor...	津田みどり	公開待ち	終了	終了	著者最終稿	OK(ファイルあり)	アップロード済み 📄		2013-02-21 21:16:03	操作
46	日本の化学産業が...	橘川, 武郎	電子化待ち	出版社許諾依頼中	終了	---	OK	---		2013-02-21 13:11:55	操作

ステータスごとの案件数

文献自動収集・登録ワークフローシステム③

登録案件編集ページ

文献データベースからインポートした
論文情報

著作権ポリシーデータベースから
インポートした出版社情報

R2R 案件管理 ▾ 雑誌管理 ▾ ユーザ管理 ▾ 設定 ▾ ログアウト

案件編集

論文タイトル 必須	Species differentiation of bruchid beetles (Coleoptera: Bruchidae) analyzed by mitoc
異なり論文タイトル	
著者名 必須	Tuda, M., Fukatsu, T. and Shimada, M.
異なり著者名	
著者名コミ	
著者所属	
発行日 必須	1995.01
掲載情報	
掲載誌	Applied Entomology and Zoology
掲載誌巻	30(2)
掲載誌号	
論文開始ページ	377-380
論文終了ページ	

出版社情報

ポリシーカラー(DB)	Blue
著者版/出版社版(DB)	publishersverion: 出版社版は利用できません
公開条件(DB)	location 著作者個人のWebサイト location 機関リポジトリ location 研究資金助成機関のWebサイト
URL(DB)	[リンク] http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/detail/journal/id/J001197
公開可能バージョン	著者最終稿
エンバゴ満了日	
エンバゴ満了後の対応	
公開規則URL	
その他	

文献自動収集・登録ワークフローシステム④

ローカル雑誌ページ

・ SCPJ・SHERPA/Romeoの情報にまちがいがある場合があるため、独自に著作権ポリシーの情報をシステム内に蓄積している。

R2R 案件管理 ▾ 雑誌管理 ▾ ユーザ管理 ▾ 設定 ▾ ログアウト

雑誌一覧 ?

雑誌名, 出版社名, ISSN

Page 1 of 2, showing 20 records out of 21 total, starting on record 1, ending on 20

ID	雑誌名	出版社	ISSN	NCID	ポリシーカラー(DB)	公開可能バージョン	データ確認日	登録日時	
2	Journal of Tsukuba	筑波大学	9999999X		Blue	査読前原稿	2013-02-20	2013-02-20 10:09:16	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
20	ブレインサイエンス・レビュー	クパプロ			---	---	2011-01-06	2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
4	test	test			---	---		2013-02-20 19:30:26	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
21	木材学会誌	日本木材学会			---	---		2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
22	Clinical neuroscience	中外医学社			---	---	2011-08-25	2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
23	工業排水・廃材からの資源回収技術	シーエムシー出版			---	---	2011-08-30	2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
3	一橋論叢	日本評論社	00182818	AN00208224	Blue	出版社版		2013-02-20 18:50:13	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
11	読売新聞	読売新聞社			---	著者最終稿	2009-11-09	2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
17	化学装置	工業調査会	03684849	AN00037449	---	---		2013-02-21 21:41:08	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>

文献自動収集・登録ワークフローシステム⑤

著者許諾ページ

R2R 案件管理 ▾ 雑誌管理 ▾ ユーザ管理 ▾ 設定 ▾ ログアウト

論文登録許諾

Title	Identification of Scholarly Papers and Authors by Connecting Databases
Authors	Kensuke Baba, Masao Mori, and Eisuke Ito
Source Title	Journal of E-Technology
Volume	2
Issue	3
File Version	---
Status	未アップロード

著者最終稿・出版社版の解説ページへのリンクなど

- このページのURLが書かれたメールを教員へ送付。
- 教員がOKを押すと、案件は「著者許諾可否登録済み」案件となり、公開作業へと移る。

文献自動収集・登録ワークフローシステム⑤

- 論文のインポート後から教員への承諾までのワークフローをシステム化。
- システムに詳しくない、またプログラミング知識のない職員でも使いやすい
- オープンソースとしてGitHubにて公開済み。

他大学も利用できる！



自分の大学でも使ってみよう！

ありがとうございました！

